



第31号

発行 東京清陵会(諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部) 会長=原大 編集=87回生(昭和56年入学)&事務局 <http://www.tokyoseiryokai.jp>
事務局 TEL 080-3939-0266 mail tokyoseiryokai2017@gmail.com DTP=スタジオパラム

サブミクロンの敵に打ち勝つ文化の変革と 利害を越えたネットワーク

まずは、世界中を席卷している新型コロナウイルスの被害に遭われた多くの方に心よりお見舞い申し上げ、リスクを背負って日々業務に従事されている医療、介護、医薬品、物流等々のエッセンシャルワーカーの皆様には感謝いたします。

同窓会も行事、会合を見合わせる中で、6月の本部総会および10月の東京清陵会総会も残念ながら延期となりました。一方私達当番学年幹事も、新しい生活様式の社会的提案もあってWebミーティングで準備を進めておりました……。

さて、緊急事態は継続中。それなりに回っていた生活、社会なのに、普段どおり行動ができません。長い歴史の中で、都度人類は科学技術と生活を変えることで対応してきました。完成形の仕組みや常識もそれと矛盾した新たな現象の発生で行き詰まり、しかし苦心して焼き直すことで新たな環境に適合させ、より高いレベルに変わります。

今まだ緊急避難中ですが、終息した後は一歩進んだスタイルになるべきです。マスクも服の一部、食事は横並びで会話

なし、職場の半分は在宅勤務とか、感覚や文化が変わってしまいそうです。なんとかこの苦しい状況を乗り越えて、緊急事態に強い社会に作り変えていかなければ、という想いです。

前段長くなりましたが、ここに「東京清陵会だより第31号」をお届けします。昨年来、私達87回生のテーマは「ネットワークやコミュニティの構築」です。発端は、清陵高校生のイベントの中で「卒業後は諏訪に戻りたい」と答えた生徒が皆無だったことでした。急激な少子化や都会と地方の二極分化を何とかしなければならぬと思い、同期メンバーの意見交換で「諏訪では自分を活かせるチャンスがないから離れていく」、「地方でも自己実現できるように」と考えました。

近年急速にSNSやWeb会議等のコミュニケーションツールが発達しインフラ整備されてきていますが、キモは「誰と、どことつながるか」。清陵高校で行っている卒業生を講師にしたキャリア講演会をヒントに、利害関係を越えて分野と人の輪を広げ、卒業生1万6千人?ベース

のネットワークをつくったらどうだろうか。あるいは、共通の分野でコミュニティをつくる、そのコミュニティ同士のネットワーク化、さらに清陵の枠を超えてもっと広くに……冒頭のコロナ禍の話においても、各人の自己実現や機会創出ばかりではなく、こうした困難に立ち向かっていく上でも、人同士組織同士つながることの意味、重要性はより増してきていると思います。

最後になりますが、特集で清陵の仲間達のコミュニティから寄稿いただきました。また、74回生の五味克成様から「新型コロナウイルスと新しい日本」と題した大変興味深い特別寄稿をいただいておりますので、是非ご一読ください。

本会報に寄稿いただいた皆さんおよび編集にご協力いただいた皆さんに改めて感謝申し上げますとともに、今回の内容が清陵に集う皆さんの新たな希望への第一歩になれば幸いです。近い将来、以前のように皆様とお会いできるようなことを切に願っています。

味澤敏行 (87回生)

2020年度 総会延期のお知らせ

東京清陵会では2020年10月4日(日曜)に、第54回総会の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、開催を延期することと致しました。

当番幹事・サブ幹事の皆様には企画・準備いただきながら、延期でご迷惑をおかけしますが、2021年度には、87回生と88回生の共同での開催を検討しており、次年度総会が盛大に開催できることを祈念しています。

また、サブ幹事学年も(92、93、97、98、107、108、117、118回生)も共同で協力をお願い致します。

なお、賛否は同封の返信ハガキにご記入の上、**9月18日(金)**必着にてご返送ください。
会報記載の議案(P22・23・24)をご覧ください。
(事務局)


 巻頭
特集

時空を超えてつながる！ 清陵生のネットワークを再認識する

期待と希望で迎えた2020。新型コロナウイルスにより様相が一変しました。働き方や生活様式が変わる中、人生の価値観までもが問われています。本当の幸福とは何か？ について考えてみましょう。

時空を超えて繋がる すばらしさ

(株)学研プロダクツサポート 取締役

中村基孝 (87回生)

私がコピーライターの後藤国弘さんと知り合ったのは、今から17年前の2003年秋頃だった。そのころ、私は当時勤めていた会社で新規事業を立ち上げるために、社内外に発信する事業コンセプトのステートメント作成や新サービスのネーミングに苦慮していた。

そんな中、当時の上司が「“コトバの魔術師の異名をとる” 素敵なコピーライターを知っている」というので、すぐに紹介してもらうことになった。青山にオフィスを構える“スタイリッシュな髭面の業界人”との初対面は、その先入観も手伝って、「さすが、都会のコピーライターはあか抜けていてかっこいいな」という強烈な印象とともに、緊張感の高い場だった。

その新規事業は、後藤さんのご尽力により順調に滑り出し発展していったが、私自身は、“コトバ”の大切さや素晴らしさを学べたことの方が大きく、勝手に師と仰ぐことにした。

それから3年が経過し、私は異動先の部署で再び新規事業の立ち上げをすることになる。前回の成功体験から、私は躊躇することなく真っ先に後藤さんに声をかけた。すでに仕事では良い関係を築いていたが、それまでお互いのプライベートに踏み込むことがなかったので、私はこの機会に“師匠”のことをもっと知りたいと思った。

後藤さんの会社のホームページを隅々まで閲覧していたある日、“長野県出身”というプロフィールが目にとまる。“東京の人”と勝手に思い込んでいたので、驚きのあまりその場ですぐに電話をした。「後藤さん、長野ですか！？ 長野のどちらですか？」と尋ねると、「諏訪湖、知っ

てる？」とお返事。私は、「もしかして、清陵ですか？」と聞き返すと、一瞬の沈黙。会話の続きは憶えていないが、「先輩オッス！」とご挨拶したことは、はっきり記憶にある。

あれから15年。私は転職した今でも、後藤さんと様々なプロジェクトでご一緒させていただいている。飲みにも行く。それは、ビジネスパートナーを越えて、尊敬する師匠を越えて、人として好きだから。そんな後藤さんも「清陵が好き」で、「いろいろ無茶や馬鹿をやった」と言うが、そんな多感な頃の共通体験も土台となって信頼関係を育んできた。

どんな仕事も、最終的には“人と人のつながり”が大切だと思っている。上下関係や利害関係を越えた関係性が、より“いい仕事”を導く。“いい仕事”とは、清陵生だった頃のように「ホンネで語り合い、本気でぶつかり合い、無理難題も相談でき、そして励まし合える」そんな関係性から生まれるものだと思う。清陵卒業から20年間の時空を超えて、当時のような熱い想いで、後藤さんと私は“いい仕事”を一緒に模索している仲間と言っても過言ではない。

もちろん、同じ釜の飯を食った同窓生だからと言って仕事での妥協や馴れ合いはない。常に真剣勝負。これも二人が共有している清陵生のDNA、共通体験かもしれない。

後藤さんは私よりも3つ年上の84回生で、高校時代の3年間は重なっておらず面識がなかった。偶然の出会いから、「同窓生」と分かるまで3年もかかったが、今感じていることがある。それは、世代を越えて繋がることのすばらしさ。卒業後に歩んだ道は違っても、重ねた歳は違っても清陵魂という共通の呼吸感を感じる。

SNS時代の今、世界中に散らばる多彩な同窓生が世代を越えてつながり合うことができる。仕事だけでなく、趣味や人生の仲間として励まし合うことができる。

信頼関係を育み、新しいものを生み出せる。私達の想像をはるかに越えた、新たな出会いと機会が無限に広がっているはずだ。

私は、同窓生という一生モノの貴重なプラットフォームを大切に生きていきたい。



銀行清陵同窓会から グループ清陵同窓会へ

(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ
 席調査役 原豊 (94回生)

94回生の原でございます。現在、三菱UFJ銀行が所属する持株会社(三菱UFJフィナンシャルグループ：MUFG)において、MUFGグループが保有する金融市場リスクの管理業務に従事しております。当社の清陵同窓会につきましては、過去においても何回かご紹介されておりますので、私が本同窓会を通じての活動や仕事とプライベート等の関わり合いについてお話しします。私が当同窓会にご縁になったのは、2006年からになります。銀行合併により新銀行となった1月の合併初日に、82回生の北原譲先輩(無論、当時は面識ございません)から突然のメールで「銀行内で清陵同窓会があり、年に1回集まるので今後とも宜しく。」と連絡があったのがきっかけです。当時は日々の仕事に追われ母校を思い出したりする事も少なかったのですが、会社の関係をきっかけに、母校や郷里を考える時間が自分の生活に増えました。同窓会は毎年9月～10月に開催。開催の定場所として、55回生の小林誠三先輩が経営される東京・八重洲にある「八重洲扇寿し(東京都中央区八重洲1-5-8 ☎03-3271-8508)」。そこに集まるのは、一

番上の方で57回生をはじめとする大先輩方。自分の両親よりも年配の先輩方から当時の仕事の話や、会社をリタイヤした後の処世術を傾聴すると生きるヒントや元気を頂いていると感じます(最近は特に)。現役で働いている先輩方、同僚・後輩とも近況や仕事の愚痴などを話してガス抜きをしております(笑)。また、当同窓会通じ次世代を担う後輩への支援する機会を頂き、付属中学校3年生研修旅行時の企業見学(銀行のディーリングルームや次世代店舗の見学の実施)や、母校を訪問しての高校2年生を対象にしたキャリア講演会(進路選択や仕事の話)をさせて頂きました。総じて、仕事でのご縁をきっかけとした同窓会で、自分の人的関係が広がるだけでなく、高校卒業後からこれまでを振り返り今後の人生を考えるきっかけを頂いているように思っています。さて、同窓会の話に戻りますが一昨年に117回生の秀島真奈さんが入社し同窓会へ加入(若手は貴重です)。また最近の取り組みとして今までの会を土台に銀行に拘らず、同じ金融グループ各社(足元は、信託銀行、証券会社、シンクタンク)の清陵OB・OGが集まり、MUFUGベースの清陵同窓会を実施しています。今後も世代を問わず多種多様な方々が集まれる同窓会として継続、発展出来ればと考えています。

霞ヶ関清陵会の集い

北茨城市市長公室 公室長

青野 洋 (109回生)

各省庁に勤めている清陵出身者での集まりを、「霞ヶ関清陵会」と銘打って、年一回をメドに定期に開催しています。事の始まりは、総務省に勤めていた77回生の武居丈二会長が、同省の清陵出身の若手職員に声をかけたことで、今までに10回ほど開催しています。メンバーは、2020年4月1日現在で総務省、財務省、農林水産省、国土交通省などの職員、11名で構成されており、霞ヶ関界隈に清陵出身者がいれば随時追加するという、緩やかな集まりとして、和気あいあいと懇親会を開催しています。

省庁勤務は、同じ公務員という身分で

ありながら、省庁が異なれば、雰囲気や業務の進め方が異なる、同業他社のような部分もあることから、懇親会での意見交換は、とても刺激的で、会員の知識の幅も広がっています。特に、国家公務員は、勤務の途中で関係団体での勤務や地方公共団体の勤務など、所属省庁以外で勤務することも多くあり、この会で得た知識や人脈を元に情報を得るなど、赴任先の勤務地での業務に活かすこともできているところです。

一方で、懇親会での話題は、こうした仕事上のお堅い話に留まらず、家庭や近況などのプライベートな話、諏訪地域の話など、同郷の者同士、腹を割った話にも花を咲かせています。特に、諏訪地方の話については、諏訪地域の各市町村における人口動態の比較など、各行政分野で得た知見を基に話していただける会員もいることから、遠く東京の地にいながら、故郷である諏訪地域の新たな一面を発見することもできています。

我が国が本格的な人口減少社会に転じるなど、昨今の社会情勢が目まぐるしく変化している中で、より多角的な視点で仕事を行わなければならないのは、公務員も例外ではなく、この会のような緩く、広い集まりは極めて有意義なものと考えています。今後もこの会を定期的に開催するとともに、まだ「発掘できていない」省庁勤務の清陵出身者を探して、本会へお誘いしてまいります。この文書をお読みの、同窓生の皆様におかれましては、身近に清陵出身の省庁勤務の方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。結びに、少々宣伝させていただきます。“勤務”や“全国転勤”など、省庁勤務の国家公務員への世の中のイメージは、決して良くないと思います。しかし、社会的な課題に対して、主体的にアプローチできるこの仕事は、非常にやりがいがありますし、休暇制度等も充実しており、世間が思っているほど悪い職場ではありません。清陵出身の若者や同窓生の皆様のお子様におかれましては、職業選択に当たっては、国家公務員という選択肢もご検討いただけたら幸いです。霞ヶ関で清陵出身の方々とお会いする日を楽しみにしています。



東京清陵会 女子部

東京清陵会女子部 事務局

佐藤美智子 (88回生)

女子部発足の経緯

「東京清陵会の女子の会を再開できないだろうか?」という話が持ち上がったのは6、7年前と記憶しています。1995年から2007年まで実施されていた女子の会を新たな形で復活し、総会などの大きなイベントには参加の少ない女性OGが、気軽に集まれるような会ができれば、という事務局の思いからスタートしました。

2015年1月、再開に向けてのキックオフミーティング実施。2016年7月、本格的な女子会イベントを開催。参加者は、女性のみということで、わざわざお越しいただいた当時の東京清陵会藤森宏一会長(男性)をも、結果的に追い返してしまうというハプニングもありながら、30人以上のメンバーが集まって始まりました。首都圏だけでなく、諏訪から、名古屋から、一番遠い方はアメリカからご参加いただきました。

イベントで得られる、刺激・活力

当初の目的は、同期の交流、学年を超えた交流、日常生活からのちょっとした息抜き……というようなものでした。それでも集まってみると、仕事のこと、家族のこと、趣味のことなど、とにかく話が尽きない、止まらない! レストランの貸し切り時間では到底足りないほどの話題があふれていました。

女子のみの会を実施したことによって、わかったことは

- ・仕事、趣味を含め幅広い分野で活躍、活動している方が多い
 - ・女性ならではのなやみがあり、それを経験したことのある人も仲間にいる
 - ・とにかく話題が豊富。聞くのもしゃべるのも楽しい
- ということです。

そして、参加したメンバーから一番多

く上がったのは「刺激になった」「明日からの活力になった」

という声でした。ただ会って、今考えていること、自分のやっていることを伝えあうだけでとても意義がありました。

現在の活動内容、今後の展望

参加者からの要望や感想を踏まえ、現在では総合的な女子会イベントだけでなく「観劇通のメンバーに案内してもらう帝劇観劇会」、「伊藤長七先生についての勉強会」など、達人のメンバーと企画するイベントも実施しています。

また、発足当初よりFacebookで「東京清陵会女子会」グループを作り、連絡事項やそれぞれのメンバーの告知などをアップしています。首都圏だけでなく幅広い地域の同窓生が登録しており、現在は75名の参加があります。

女子部の活動を通じて、20代から80代までの様々な卒業生OGに出会えることが何よりも価値のあることだと考えます。また、その出会いから東京清陵会の母校連携活動の、講師になっていたいたり、企業訪問の受け入れをしていただくなど、母校の後輩たちとのつながりも築くことができました。

さらに、OGの会を発足する動きは同窓会本部にも起こり、本部を通じて各支部にも波及してきています。本年1月に、初めて諏訪で各支部の女性のみの会合がありました。今後、支部をまたいだ横断的な企画も生まれていきそうです。

また、女子部ということでメンバーは女性に限りませんが、イベント内容によって、男女ともに参加可能な企画も発信していますし、逆に仕事やライフステージにおける女性ならではの悩みや経験に特化したテーマでのイベントも考えていきたいと思えます。

東京清陵会の中でもまだまだ、出会えていないOGの方々がたくさんいます。

ご参加希望の方は、東京清陵会女子部事務局までメールいただければ、Facebookのグループをご案内させていただきます。次回イベントなどの通知をします。tokyoseiryokaijoshi@gmail.com

どうぞ、お気軽にご連絡ください。

清陵勉強会はコミュニティ?

清陵勉強会世話人 有賀一温 (75回生)

1990年に始まった清陵勉強会は、各方面で活躍し、様々なジャンルで研究・実務等、業績を上げている清陵OB/OGの方々を講師として招き、講演を行っている。講師・講演テーマは文系・理系のバランスを考慮して選び、「今を理解する」ことを目指している。2019年12月開催の第179回まで年6回、一度も休むことなく続けてきたが、COVID-19予防のために、第180回～第182回の開催を断念せざるを得なかったが、もちろん、COVID-19の嵐が過ぎ去ったら必ず清陵勉強会は復活再開する。

清陵勉強会は、当初から清陵OB/OGはもちろんのこと、講師や講演テーマに興味があれば誰でも参加することができる「ゆるい」集まりであり、また講師は清陵OB・OGでなくても構わないともしてきた。ここ数年間では各回の講師や講演テーマによって参加人数に変動はあるものの、毎回約30人が参加している。講演終了後の懇親会は、講師と直接話することができる「場」であり、リラックスした雰囲気でお酒も入ることも相まって、より理解を深めることができると思っている。さらに清陵生は、先輩・後輩の垣根は少ないはずなので、入学回の関係なく参加者間のコミュニケーションも活発になるというメリットは大きい。

当番幹事の「東京清陵会だより」の企画趣旨は「同窓生同士のコミュニティを活性化することにより、同窓生一人ひとりの仕事や生活の充実を図る。これによって同窓会の価値向上、活性化につなげる」とあり、以下を目指すとしているが、清陵勉強会は発足時からこれらを自然に実現していると思う。

1. 仕事をするうえで相談できる同窓生を見つける
2. イノベーションにチャレンジする同窓生を支援する
3. 情報交換を促進する(子育て, 健康, 介護など)
4. 趣味の仲間を集める

現時点では約300人の勉強会会員に、

日時・場所・講師略歴・講演テーマ等を電子メールで配信して参加者を募っている。

端艇部OB・OGのコミュニティ「諏訪清陵会」について

諏訪清陵高校端艇部コーチ

杉村 篤 (94回生)

端艇部は旧制諏訪中時代から存在し、設立は1901年に遡ります。昭和56年の神奈川インターハイ(ボート会場は茨城県潮来市)では男子舵手付きフォアが、昨年の南九州インターハイでは女子シングルスカルが優勝、全国レベルで活躍し、日本のボート界において長きに渡り活動しています。その端艇部出身者のOB・OG会が諏訪清陵会です。会長は宮下信市さん(71回生)です。会員数は不明ですが(笑)、端艇部出身者は名簿で把握しているだけで500名を超えます。

現在の活動状況ですが、毎年1月2日総会兼新年会を開催。OB・OG有志による現役選手のコーチングや支援を行い、数年に一度、新しい艇を購入し寄贈しています。さらに各年代でボートを楽しむ方が多く、全日本マスターズレガッタや下諏訪レガッタに参加するOB・OGも多数います。尚、昨年は南九州インターハイにて優勝した武井愛奈選手(現:早大1年生)の祝勝会を現役生徒と共に盛大に開催しました。またFacebookに諏訪清陵高校端艇部のページを開設し現役生やOB・OGの情報を発信、現役生徒はツイッター、インスタグラムのアカウントを開設し活動状況を発信しております。活動を通じてよかったこと、役立ったことといえば、やはり各界で活躍する様々な年代の端艇部OB・OGと繋がりを持つことが出来ることだと思います。その繋がりには単に清陵高校出身というだけでなく、ボートをやっていたという特



殊な要因が絡んだ繋がりのように思いません。清陵高校には数多くの部活があり、OB・OGの繋がりはいくつも存在すると思いますが、端艇部OB・OGの繋がりには非常に強いと思います。それは何故か？活動拠点が学校から離れ、独自に活動する施設（艇庫）を持ち、3年間ほぼ毎日一緒に活動し、クラスメイトより濃密な時間を過ごす。練習は、学年を超えて同じ艇に乗って行い、試合となれば県外に泊まりで遠征する。まさに「同じ釜の飯を食う」という言葉がびったりの活動をしているからではないでしょうか！

さて、今後の活動の予定、方向性ですが、まずは端艇部OB・OGが今まで以上に、幅広い年代を超えて交流できるコミュニティを目指したいと思います。それは諏訪清陵会の活動を活発にしたいという宮下会長の思いにも表れ、若手の後藤重也香さん（112回生）が女性副会長に就任。コーチの立場で現役生との繋がりがある私も事務局の任務を頂きました。そして幅広い年代の交流を実現するために、前述したSNSツール等を活用し情報発信していきたいと思います。

最後に、大災害や新型コロナウイルス感染拡大といった社会不安が増す中で、諏訪清陵会は「何か頼りになるコミュニティ」を目指したいと思います。また社会に出てボートを離れてしまった端艇部出身者が、またボートに戻ってきたいなあと考えた時に入口となるコミュニティを目指したい。端艇部出身者でなくても、清陵高校の現役生徒の様子を知ることが出来て、さらに清陵出身者の繋がり作り出すことが出来るコミュニティを目指したいと思います。

女子バスケットボール部

吉中(天野)宏子(89回生)

卒業から30年余りが経ちますが、ちょうど私が入学した年(昭和58年)は、女子バスケットボール部が、部活動として認可され、初稼働の年だったと記憶しています。

それまでは、「男子バスケットボール部・女子班」だったと！

86回生の先輩方が奔走し、全て自力



で立ち上げてくださり、今の清陵女子バスケットボール部が始まりました。(当時の女子力、清陵魂の賜物です！)

また、その時の先輩、中込(藤森)三穂子先輩(86回生)のご尽力で、昭和63年から「OG会通信」も毎年発行され、31年間、現役とOGを繋げてくださっています。設立当初は、ギリギリ5名、練習場所もなかなか確保できず、できる範囲の中での活動でしたが、現在は、清陵の女子人数が増え、女子バスケットボール部の存在も大きく、強くなっています。

OG会も、小さな子連れでの参加だったのが、今では何と！「娘が現役生、しかもキャプテン！」という親子2代(90回生の外川(藤森)加奈恵さん)も現れました。

OG会のメイン活動としては、お正月とお盆の年2回OG戦開催、ユニフォーム寄贈(4回)、救急セットや作戦板等の購入補助をさせて頂いております。特にOG戦は、現役との交流戦やフリースロー大会など、ゲームをする人もしない人も、気軽に集まる場として、毎年欠かさず続いています。懐かしい校舎を訪れる事ができるのも、楽しみの一つでもあります。

現役生のパワーと、いくつになっても変わらない明るいOGの仲間から元気をたくさんもらえる日が、これからもずっと続けられるよう、繋げていきたいと思っています。

音楽部 OB・OG会

諏訪清陵音楽部 OB・OG会 世話人

秋山清隆(85回生)

高校時代、音楽部に所属していました。放課後、2畳あるかないかの小さな部室に入りきらない数の部員が集まり、今の言葉で言えば“濃厚接触”をはるかに超

える過密状態で、みんなと過ごす時間が大きな楽しみでした。卒業の日、そんな大切な時間が二度となくなってしまうことにはその時はまだ気づかず、またすぐにみんなと会えるような気持ちで別れてから30年が過ぎました。しかし、ほとんどの人と、その後会うこともなく月日が過ぎ、その長い時間は、連絡をとる術すら奪っていました。

そんなある日Facebookに登録し、出身高校名で検索をしていたところ、同じ音楽部で時間を共にした友人たちを見つけ、連絡をとりました。FacebookのようなSNSが、時間と場所を超えた連絡を可能にしてしまうことに驚きながら、また一方で、文字だけのやりとりからは、あの頃一緒に過ごした空気を思い出してくれるものはありませんでした。結局、10人ほどの友人と連絡をとれた時点で、卒業して以来、初めてのOB会を開くことになりました。

30年の長い時間は容姿を変え、当日、会場に一人一人現れる度に、誰なのか分からない状態でした。しかし、話し方、表情、仕草には、昔と変わらないものが残っていることにすぐに気づきました。そのような昔と変わらない部分に接すると、その人との忘れていた思い出が、次々と呼び起こされていきました。忘れてしまったと思っていることも、実はその“記憶”は頭のどこに残っていて、単に引き出せないだけという話を聞いたことがあります。それを実感しました。次々と呼び起こされる記憶の中で、この人たちと過ごした時間が、今の自分を作ったことを感じていました。

私たちの世代は、アナログとデジタルの狭間です。高校、大学を卒業し、社会人になってからITの時代がやってきました。ITの力は偉大で、離れ離れになった仲間を引き合わせてくれました。しかし、アナログ時代の高校の思い出は、今ではセピア色に変色してしまった写真と、卒業の時にもらったしみだらけの手書きの寄せ書き、そして記憶だけです。頭のどこかに残っていて引き出せなくなっている記憶を思い出するために、また今年もみんなと会うことができたらと思っています。

幸福な人生に必要なこと

日本福祉大学教授 藤森克彦さん(87回生)

「幸福で健康な人生を送るには何が必要か」——皆さんは、この問いにどのように応えますか。

この点、米国のハーバード大学が行なった興味深い研究があります。この研究は1938年に始まり、当時のハーバード大学2年の男子学生と、ボストンの貧しい環境で育った少年達の合計724名について、75年間にわたり、1年おきに面接などの追跡調査をしたものです。今でも約60名がご健在で、その多くは90歳代でこの調査に参加しています(注)。

724名の人生は様々です。工場労働者になった人もいれば、弁護士、レンガ職人、医者、そして大統領になった人もいます。また、何名かはアルコール依存症になり、数名は統合失調症を発症しました。社会の底辺からのし上がった人もいれば、その逆のコースをたどった人もいます。

この研究から得られた示唆は何でしょうか。それは、「幸福で健康な人生に必要なのは、富でも名声でもなく、人とのつながりである」ということでした。さらに、これに関連して、3つの点が指摘されています。一つは、家族、友人、コミュニティとのつながりをもつ人ほど、幸せで健康な人生を送っていること。二つ目に、つながりの質が大切だということ。例えば、つながりの質が高ければ、老いによる心身の苦しみを緩和してくれるようです。そして三つ目に、いざという時に頼りになる人がいることなど、良い関係性は辛いことから脳を守り、記憶障害になりにくいことが指摘されています。

私は、大学で社会保障論などを教え、一人暮らしの研究をしています。上記の「人とのつながり」の重要性は、私の研究でも感じていることです。今、日本では、身寄りのない一人暮らし高齢者をはじめ、社会的に孤立されている方が増えています。今後を考えても、未婚化が進んでいますので、配偶者だけでなく子ど

ものいない方が確実に増えていくでしょう。

言うまでもないことですが、一人で暮らすかどうか、あるいは結婚するかしないかは、私的領域の事柄で、各自が人生の中で決めていくことです。良いも悪いもありません。

一方、人とのつながりが乏しいために、生きづらさや様々な生活上のリスクを抱える人が多くなっています。人は、一人では生きられません。例えば、病気になった時など、いざという時に「頼れる人」がいれば安心です。また、生きる意欲や自己肯定感、他者を通じて得ることが多いと言われています。「頼ってくれる人」の存在も大切です。

こうした役割は、多くの場合、これまで家族が担ってきました。今後も、家族の役割は重要ですが、単身世帯の増加や未婚化の進展などによって、家族の形は大きく変化しています。家族とのつながりだけでなく、友人やコミュニティなどと「緩やかなつながり」も大切になっています。

しかし、人とのつながりを作ることは、面倒なものです。実は、私自身、人とのつながりのために主体的に動くタイプではありません。同窓会活動もほとんど無縁です。そんな私に、どういうわけか「同窓生同士のコミュニティの活性化について書いてほしい」という依頼が来ました。私は、ご依頼通りには書けないのですが、個人的な体験を通して考えたことがあります。

清陵に入学してまもない頃、全校朝会が開かれ、黙とうをする時間がありました。あの時のことは、今でも心から申し訳なく思っているのですが、バカな私は悪ふざけをしていました。上級生から罵声を浴び、私は、全校生徒の前で謝罪をしました。

その日の夜、生まれて初めて「明日は学校に行けそうにない」と思いました。しかし、翌日何とか登校すると、誰もそ

のことに触れません。私はその気遣いを有難いと感じました。その後も、この愚かな出来事を忘れることは決してなかったのですが、心の中で封印してきました。

それから33年が過ぎたある日、清陵の同期生から、人を介して「会いたい」という連絡が勤務先に入りました。その方は大企業の部長になっていましたが、卒業後、一度も会ったことがありません。なぜ会いたいのかわかりませんでした。

約束した夜にお会いしたら、新聞に掲載された拙稿を見つけて連絡をくれたようでした。そして「謝りたい」と言いました。何のことかと思ったら、「33年前のあの日、自分も悪ふざけをしたのに、全校朝会で一緒に謝罪しなかった。そのことをお詫びしたい」と言うのです。首謀者は私で、誰が関わったかも覚えていませんし、そんなことは微塵も考えたことはありません。しかし、そのために連絡をくれた旧友の思いが、何だか心に沁みみました。

翌日、封印してきた話を、家族にしました。今もって、愚かで、情けなく、恥ずかしい出来事なのだけれども、30数年後に別の色に変わることがあるのだと伝えました。

おそらく同窓会の交流においても、様々な思い出が、時を経て、別の彩を帯びる瞬間があるのでしょうか。多感な時を共に過ごしたコミュニティのつながりは、人生を豊かにしてくれるのだらうと思います。

(注)
2015年11月TEDでのロバート・ウォールディング教授による講演録“What make a good life? Lessons from the longest study on happiness”に基づく。

特別
寄稿

新型コロナウイルスと 新しい日本

高輪ファーマ
サイエンス担当ディレクター
五味克成さん(74回生)

5月19日に清陵勉強会のWeb講演にお声を掛けていただいたきっかけで、本稿を寄せさせていただくことになりました。私は1975年に東京大学薬学部を卒業し、協和発酵医薬研究所に入社しました。新しい抗がん剤を探ることになり、翌年、北里研究所の大村智先生が発見したプルマイシンに抗がん活性を見い出しました。大村先生は2015年にイベルメクチンでノーベル賞を受賞され、今は新型コロナウイルスに対して効果が期待されています。プルマイシンは私がその後、大塚の癌研（現がん研有明病院）に派遣されている間に上司が大村先生と連名で論文を4報発表され、博士号も取得されていました。

1985年に新研究所長が着任されました。プルマイシンの件で私に同情してくださり、医薬研究所の海外留学第一号に選んでくださいました。しかし私の胸中は複雑でした。留学予定の米国ではエイズという得体の知れない病が広がり始めていました。

翌年4月にNIH（国立衛生研究所）配下のNCI（国立がん研究所）に赴任して懸念は的中しました。研究室のあるメインビルディングは米国のエイズ研究・治

療の最前線で、NIH配下のNIAID（国立アレルギー感染症研究所）には100名以上の患者が入院していました。

新型コロナウイルスでは今年1月頃に武漢の研究所に留学したようなものです。NIAIDでは患者は隔離されることもなく、カフェテリアに出入りしていました。幸いにも上司夫妻は医師でエイズに詳しく、直ぐに日常生活では感染の恐れがない事を知りました。当時、熊本大学から留学された満屋裕明先生の研究室を見せていただきました。先生は世界初の抗エイズ薬AZTの開発でノーベル賞候補です。私の病理研究所には亡くなったエイズ患者の解剖室があり、帰国前にボスにお願いして見せていただきました。着替えもせず、手袋もせず入室できましたので、驚きました。

帰国後、インターフェロン（抗ウイルス物質）研究、2005年にはインフルエンザのパンデミックについて国内最強の警告を発していた東大医科研の河岡義裕教授との面談の設定に関わりました。2013年には米国ギリアド社（レムデシビルを開発）のC型肝炎薬に関わりました。C型肝炎はこれらの薬により完治する病気になりました。2014年には富山に単身赴

任した際、富山の誇りアビガンを知りました。アビガンを開発した富山化学はインフルエンザに対する国の承認がなかなか得られず、最終的に富士フィルムへ統合されることになりました。以上の経歴で感染症にはがん同様に関心がありました。

今年1月に中国の武漢の様子が気になりました。中旬には製薬業界世界最大の集会在サンフランシスコにあり、参加しました。この頃は米国には新型コロナウイルス感染者はほとんど報告されていませんでした。多くの海外の方と握手をし、密室で面談し、夜はディナーを共にして来ました。その3ヶ月後の4月には感染者が100万人を超えました。コロナウイルスは元々、ヒトに日常的に感染する風邪ウイルスの一種です。1月頃は新型コロナウイルスもインフルエンザと同様に普通の病原体であるとの見解を示す医学専門家もおられました。

しかしその後、2002年に中国で発生したSARSや2012年に中東で発生したMERSと比べてはるかに深刻な感染拡大をもたらしました。この理由の一つとして、ウイルスがヒト細胞内に侵入する際に必要な受容体が指摘されています。言わばウイルスを細胞内に導く内通者です。

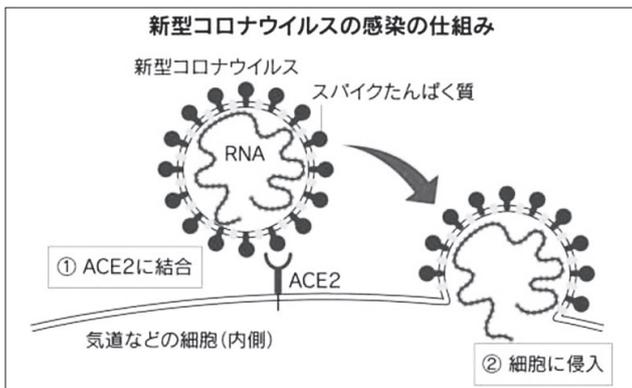
新型コロナウイルスの受容体はACE2と呼ばれる血圧調節に関与している物質で、SARSより10倍以上、結合力が強いと言われています。MERSの受容体はDPP4と呼ばれる血糖値の調節に関与している物質です。この様に血圧や血糖値を調節している重要な生体内機能物質にこれらのウイルスが結合するようになった進化のメカニズムは謎です。

最近、ACE2は新型コロナウイルスの重症化因子である高血圧、糖尿病、喫煙などと関連があることが報告されています。また急性腎不全や血栓などの関連も報告されています。

人類は感染症との戦いの歴史の中で、



NIH Bldg.10(メインビルディング)



日本経済新聞電子版5月11日より改変

自然免疫と獲得免疫の二段構えの強固な生体防御機構を構築してきました。

1. 自然免疫

- ・病原体が体内に入った時に直ちに出勤する免疫系です。自衛隊のスクランブル発進や迎撃ミサイルに相当します。
- ・新型コロナウイルスで症状が出ないで治った方の多くは自然免疫が作動したものと思われます。
- ・自然免疫の限界は、大量のウイルスの襲撃には対抗できないことです。

2. 獲得免疫

- ・病原体の抗原に対して生体内で産生される抗体や細胞性免疫です。自衛隊の陸海空の主力部隊に相当します。
- ・弱点は免疫成立までに時間を要することです。
- ・発症しても治癒した人はこの免疫機構が作動したものと思われます。
- ・ワクチンは獲得免疫の為に投与されます。

獲得免疫が成立するまで、ウイルスと生体の攻防が続きます。抗ウイルス剤の効果最も期待されるのはこの時期です。

現在、患者に投与されているレムデシビルとアビガンは他のウイルス病治療の為に開発された薬で、言わば応急措置です。既に多くの製薬企業が新型コロナウイルス選択的な薬の開発に着手しており、数年後にはエイズと同様に薬で治癒する病になると予想します。ワクチンについてはインフルエンザのように順調にいけば最速1~2年で実用化が期待できます。

一方、エイズについてはウイルス発見後30年以上経過した今年2月にNIHがワクチン開発中止を発表しました。新型コロナウイルスでも困難を伴う懸念があります。ヒトでの効果は生きた新型コロナウイルスを接種して調べることはできません。自然感染を待つこととなります。また高度の安全性が要求されます。女性の子宮頸がんはウイルスが原因とされる数少ないがんの一つです。このウイルスに対するワクチンが開発、発売されました。しかしながら重大な副作用が報告され、訴訟となっています。

米国留学中に「ウイルスの逆襲」といった記事を目にしました。当時エイズは麻薬常習者などに感染しており、こうした人間社会の倫理の乱れに対してウイルスが警鐘を鳴らしたという内容でした。今

回の新型コロナウイルスでは各国リーダーの資質が顕在化しました。日本経済新聞電子版が5月3日に「決断力がいちを守る 女性リーダー、説明丁寧に」の記事でウイルス対策に成功した6ヶ国の首脳が女性であることを紹介しました。特に海外で評価の高いドイツのメルケル首相は物理学者であり、最新の情報を的確に把握して迅速に対策を打ち出しました。また旧東ドイツ出身で、自分自身が受けた差別、偏見の体験をもとに、弱者に寄り添う姿勢も共感を呼びました。

一方、国内においては政府の機能不全が露呈しました。新感染症の検査・診療への対応の遅れ、経済対策の遅れ、30万円/10万円給付の曲折と支給の遅れ、国支給のマスクの品質・配布遅れ、マイナンバーカードの不便さなどです。極めつけは賭博麻雀で辞職した検事長とそれを任命した政府です。新感染症による経済的、社会的損失は甚大で、国難はこれから正念場を迎える中で、これらの事態は人々に暗澹たる思いを抱かせました。

しかし新型ウイルスの逆襲により日本には素晴らしい若手地方政治家が数多くいることも明らかになりました。その代表格が大阪府の吉村知事です。時に厚生労働省の通達を無視し、時に西村対策担当大臣に反旗を翻しながら素早く謝罪、和解し、終わってみれば府の権限を国に認めさせていました。実に巧みに新感染症の拡大を収束させて行きました。

公務員、民間にも優秀な若者が多数おられ、そして諏訪清陵高校出身者もまた然りです。そうした若い世代が英知を結集して、ポスト・新型コロナウイルス時代の日本の明るい将来を切り開いてくださることを祈願します。

「コロナ禍」後の 同窓会活動

会長 ^{はら たかし}
原 大(73回生)



会員の皆様には、日頃より東京清陵会の活動にご理解とご協力を頂き、多大なご支援を賜っておりまして厚く御礼申し上げます。また新型コロナウイルスによるコロナ禍により、心身ともに多大なご負担を強いられおられること、心よりお見舞い申し上げます。

100年に一度の世界的なパンデミックとなった中、ウイルスの感染拡大防止のため、同窓会活動も自粛を余儀なくされております。本部同窓会においては6月27日開催予定であった総会が延期となり、来年度に87回生と88回生での合同・共催が計画されています。

東京清陵会におきましては、1990年2月20日を第一回として隔月開催されて参りました「清陵勉強会」ですが、今年2月で丁度30年となる記念の180回目を中止せざるを得ず、その後も開催を控えざるを得ない状況です。30年間一回も欠かさず定例開催され、如何なる環境下でも決して学ぶことを諦めない清陵魂の象徴ともなっている勉強会の定例開催断念は、これまで担ってこられた方々の熱意とご努力を思うと、まさに断腸の思いです。

加えて、現時点におきまして緊急事態宣言は解除されておりますが、未だ収束とは言えず、第2波、第3波の感染拡大のリスクが拭えない状況下、10月4日開催予定である東京清陵会総会の開催は延期とせざるを得ません。今後とも同窓会諸活動に様々な制約を受けるでしょうが、本年度の当番幹事の87回生は纏まり良く、困難な環境の中ではありますが志気盛んで心強く、「東京清陵会だより」は8月に予定通り発行となります。

さて、明けない夜はないと言いますが、コロナ終息後、社会構造は大きく変化していると思います。政治・経済の事は置くとして、社会生活面では、コロナ対策で普及したりモータワークが働き方改革を一挙に促進させ、生活の充実が大きな命題となってくるでしょう。また物品購入は勿論のこと、ネットによるコミュニケーションが各層で促進、一般化した結果、それに伴いモートコミュニケーション技術が一段と進歩を遂げると思います。

このような社会の変化と技術の進歩は、同窓会を一つのコミュニティと捉え、その発展を予見させます。会員が満足感を覚える同窓会コミュニティの提供は、コミュニケーション技術の進歩により、会員の生活の充実に資する情報の収集・発信・交換を飛躍的に向上させることが可能となるに連れ、達成されて行くと思います。

今は昨年再開したHPの充実を図っている段階ですが、今年の「東京清陵会だより」のテーマは清陵同窓会をベースとしたコミュニティを活性化すると聞いており、議論の展開を大いに楽しみにしております。

東京清陵会の イノベーションを考える

新型コロナで新生活様式に変わりました。リアルが前提の当会活動もオンライン対応など新機軸に取り組みます。運営の方向性私案は第29号(2018年P2)に掲載しましたが、2年を経て再度提言としてまとめました。原会長の下、皆様と相談して進めていきたいと考えています。

1. 東京清陵会の位置づけ

- 1) 第三のコミュニティ：ご家族地域、仕事職場に続く、第三のつながりです。同郷で青春を共にした信頼でき、刺激的な仲間。
- 2) 参加像：在住者同期数十人の5人に1人(10数人)が1年に1度何らかの参加。家庭・仕事・健康など参加できるときに参加(サブ幹事学年[25、35、45、50歳]は節目参加のきっかけ)。当番幹事[55歳]の運営負荷軽減のために標準化・効率化を推進します。
- 3) 本部同窓会とのすみわけ：本部は同期全体の結束を、東京は世代間交流で同窓生の明日への知的刺激にも注力します。

2. 三つの目的への取り組みの方向性

- 1) 交流・親睦：同期会を起点に、ニーズや貢献視点から世代間交流機会を拡充します。
- 2) 研鑽：勉強会を軸に感性・知性刺激、継続的テーマ研鑽の場の創設も具体化します。
- 3) 母校生徒郷里への応援：講師派遣・職場見学受入れを継続、先見性ある貢献の中身や生徒との交流機会の充実を志向します。

3. 三つのキーワード

- 1) ダイバーシティ(多様性)：清陵生は個性的。多様な価値観、魅力ある個性を尊重し、言動を採り上げ、誇りや励みにしましょう。
- 2) 女性：女性比率は、30年前の学年は1割、最近では半々。女性同窓生の活躍は益々進展。女子会の継続、女子役員、女子学年幹事も拡大し、運営に女子視点も増やします。
- 3) 感性と知性に訴求：諏訪人の感性や清陵生の飽くなき知的好奇心探究心に訴求。次世代リーダーなど人材輩出に取り組みます。

4. 三年後にありたい姿のイメージ

- 1) 登録会員：不明・潜在同窓生は2000人。3000人(登録6割)から3500人(7割)に拡大。
- 2) 年間活動参加人数：500人(17%)から600人(20%)に増加。
- 3) 年会費納入率：300人(1950人・16%)から470人(2200人・20%)に拡大。

5. 魅力を高める3つの構想案

- (1) 「人材バンク」構想：多面で活躍する同窓生をネットワーク化し、母校支援に限らず、ビジネス人脈として活用できる魅力を構築。
- (2) 「エルダークラブ」構想：人生100年時代にセカンドライフで生き生き活躍するシニア同窓生(エルダー)の生き方を共有する繋り。
- (3) 「同好会」構想：同好同窓生の趣味学びを継続する繋り。諏訪に縁ある日本酒、街歩き、考古学なども。世代問わず学び、楽しむ会。

2020年度に有志で構想検討、トライアル開催。会報、HPで紹介していきます。

6. 思索から実現フェイズへ

2人集まると議論する清陵生(我が家)です。新型コロナを契機に、社会・経済にイノベーションが求められています。皆様のアイデアを実現するフェイズです。小さなトライを剛毅果断に進めていきましょう。

事務局長 北原譲(82回生)

東京研修旅行&キャリア講演会 生徒支援に加え、交流も拡大中

2019年度は、附属中学東京研修旅行での職場見学受け入れは4年目、高校キャリア教育への講師派遣は、3年目と支援は定着しました。7月の高校学習合宿には岩本敏男氏（74回生、NTTデータ前社長）が登場、6月の清陵祭で初の同窓会展示を行い、交流しました。若手同窓生講師も募集中です。

附属中学「東京研修旅行」での職場見学受け入れ（4年目）

<概要>

諏訪清陵高等学校附属中学校が開校して6年。3年生の関東方面への研修旅行も4回目となりました。この研修旅行では、大学・研究機関・企業等で、最先端の学問や研究、異文化に触れることを通して、自分の将来像や学習展望をさらに意識化することを目的としています。特に、企業訪問では、勤労体験学習等を通して、自らの『はたらく観』についての思いを深めてきた生徒達が、清陵OBやOGの皆様が働く、世界を股にかける企業へ訪問・見学をさせていただくことで、生徒が自らの職業観をさらに深め、現在の自分自身や将来についての思いを深めることができると考えています。

この研修で得たかけがえのない刺激から、1人ひとりの視野を更に広げてほしいと思います。

<総括コメント>

東京清陵会のバックアップによる企業訪問は、本校でしかできない貴重な体験となっています。各企業の中核部で仕事を担っている清陵OBの方々、普段見ることができない仕事の裏側やそこで働く方々の『働くこと』に対する熱意を見せていただき、中学生へのアドバイスなども話していただきました。職種は様々でしたが、それぞれに『本物にふれる』という経験をさせていただき、清陵中生にとって、他には代えることのできない貴重な体験となりました。今回ご協力いただいたそれぞれの企業では、昨年度までと同じように、「中学生の学びを全力でサポートしよう」という思いをもって受け入れをしていただきました。そういった企業側の姿勢に、生徒も学校では学ぶ

ことができない多くのことを学び、刺激を受けたようです。特に実際に働いている方からの重みのある言葉に、生徒達は仕事に対する責任感や熱意を感じ、将来目指す姿や、今の自分に必要なことについて考えるきっかけにもなりました。

今後もぜひ、中学生の学びをより深めるためにご協力をいただきますよう、よろしくお願ひします。このたびは、誠にありがとうございました。（諏訪清陵高等学校附属中学校教諭 新田 香）

<企業訪問支援記>

小職は現在、東京都総務局総合防災部にて大規模災害発生に備えた救援物資供給の枠組み作りを所掌しております。拙稿が掲載される頃には新型コロナ肺炎禍が収束し、可愛い後輩による企業訪問が実現することを夢見つつ、日々東京都の対策を下支えしております。小職が企業訪問支援を担当する契機は、3年前の東

京清陵会総会の打ち合わせの際に82回生の北原譲先輩より御紹介を頂いたからです。

「これは断れんな」と思いつつ、普段接する機会のない中学生に自分の職務内容が伝わるか不安を禁じ得ませんでした。

かかる企業訪問支援は、昨年で都合3回目となり、当初の不安感は払底され、むしろ楽しみとなりました。一昨年春で職場が陸上自衛隊から東京都総務局総合防災部に代わってからの研修は、都庁見学、総合防災部の業務紹介、若手都職員との懇談及び水害対策施設である神田川・環状7号線地下調節地の見学としております。

研修に際しては、事前聴取した質問事項等を踏まえ、小職の職務遂行の姿勢や心構えを伝えつつ、将来の職業選択の一助になるように工夫しています。若手職員との懇談では、入庁動機・経緯や防災部での勤務経験を中心としつつも、給与や処遇などストレートな問いにも答えて

研修旅行 企業見学一覧

企業名	担当者様	東京清陵会OBOG
JFE エンジニアリング株式会社	今井俊雄	今井俊雄
ネクスト クライアント オフィス (三菱UFJフィナンシャル・グループ)	調査役 北尾	原 豊
エスエス製薬株式会社	金丸喜彦	伏見升成
電通	金子武司	金子武司
日本テレビ	川村益昭	川村益昭
日立製作所	眞田明美	眞田明美
税理士法人フェアコンサルティング	安東眞弓	細田 明
東京都庁	大澤洋一	大澤洋一
KDDI	猪俣美智	藤江美智
双日株式会社	朝村圭太	原 大
ブリヂストン	長谷川美紀	原 秀男
電通国際情報サービス	武田正利	武田正利
岩波書店	堀内まゆみ	(寺島亮三)
JAMSTIC (海域観測研究開発センター)	藤井友紀子	小平秀一

貫っています。施設研修では、超高層ビル（都庁）や地下トンネル（調節池）といった長野県には存在しない（！）施設を案内し、都市景観や施設構造の特徴や建設時の苦勞も伝わるようにしています。

若手都職員に遠慮がちに直球な質問を浴びせかけたり、施設見学時に素直な驚きや目の輝きを見せる生徒の様子に接し

ていますと、学校教育の健全さも透けて見えてきます。

また、研修終了後に頂戴した心の籠った自筆御礼状を拝読し、そこにある印象深かったことや励ましの一語を宝物として心に刻んでいる次第です。因みに研修間の唯一の苦勞は、地下トンネルから約40メートルを生徒と一緒に階段で上が

ることで、終盤は意識が遠のきました。

こうした機会を与えて頂いた北原先輩を始め、学校職員の方々や都関係者等々に深く感謝しつつ、今年も鶴首してお待ちしております。

東京都総務局総合防災部勤務

大澤洋一（84回生）

第3回諏訪清陵高校 キャリア講演会

<概要>

昨年度に引き続き、東京清陵会にご協力をいただき、第3回諏訪清陵高校キャリア講演会が高校2年生を対象に令和元年10月19日（土）に行われました。今年度はご存じの通り、台風19号の影響により、JR中央東線ならびに中央道が不通になり開催が危ぶまれましたが、前日の移動が可能であった7名（予定では10名）の同窓生を講師としてお迎えし、予定通り実施することができました。

昨年同様、講師の皆様から、自己の高校時代のエピソードや進路決定、現在の仕事内容、人生のターニングポイント、専門分野で必要としている人材、後輩である清陵生への期待やメッセージなどを熱く語っていただきました。経験豊かな先輩方から社会人として必要なこと・人生観・職業観を聞くことができ、多くの生徒が刺激を受けた様子でした。

<講師より>

人生100年時代。

その半分ちょっとしか経験していない自分が何を話せるか、とても心もとなかったものの、システムエンジニアの仕事と学生時代に何を学ぶべきかをテーマにお話しました。

情報システムとは何か。これを説明するのがそもそも難しい。スマホの時代、日々、「魔法の小箱」を通じてシステムを使っているものの、どんな仕組みで動いているのか、知っている人は少ない。そこでGoogleの検索エンジンを例に、システムのデザイン、利用している数百万台というコンピュータ、それを守るデータセンターといったことを紹介した。

少しでもシステムエンジニアの仕事を楽しそうだと思って頂けたらどうか。

学生時代に学ぶべきこと。振り返って、私にとって学生時代に学んだことで今に役立っていることは何だろうか。理系だった私は数学、物理が好きだったが、今、役に立っていることはほとんどない。どちらかというと、苦手だった地理や国語のほうが役に立っているという実感がある。ただ何より役立っているのは、知的好奇心や情報の集め方、集中力といった勉強の仕方ではないか。教えられるのを待つのではなく自分で工夫しながら学ぶこと、それが大人になってから一番、役立つことだとお話しした。

清陵を卒業して30年。リンリンと鳴る黒い固定電話の時代から、魔法の小箱を使って通話だけでなく様々な情報を集められる時代へ。How-toはこれからもどんどんと変化していこう。「就社」から「就職」へ、若者のキャリアに対する考えも大きく変わろうとしている。私自身、人生100年時代の新しい世代とこれからどう付き合っていくべきなのか。

教えることは学ぶこと。

今回の講演会を通じ、自分自身、頭の整理をする中で新しい気づきがあり、為（タメ）になった。私の講演が彼ら/彼女らにとって、少しでも役立つものであったらありがたい。北沢 聖（87回生）

キャリア教育講演会が実施されるようになった初年度から、ありがたいことに、医学分野の講師として毎年呼んで頂いている。このような機会でもなければなかなか母校に行くこともないので、毎年楽しみな行事の一つになっている。

講演内容としては、

- ・高校時代の活動（成績、部活動など）
- ・医者になった理由と経緯、精神科を選

んだ理由

- ・現在の仕事内容（医者の仕事とメディアの仕事）
- ・医学部や医者の中話

等を主にお話した。医者と聞くと高収入で派手なイメージも強いが、そういったメリットばかりではないこと、また病院やクリニックに勤務する臨床医以外の仕事について、医者になるまでの大変な医学部生活など、世間一般的にはあまり知られていない裏話などもたくさんお伝えした。（が、これを聞いてやっぱ医者になりたくない！と思われたら困るのだが…）医学部はじめ、医療系志望の生徒さんばかりのため、割と皆興味を持って聞いてくれていたように思う。

近年、医学部入試の点数操作で問題になってはいたが、最近では女性医師の割合もかなり増え、女医ニーズも高まっている。医学部の同級生の名言に「女医ほどコスパのよい職業はない」という話もある。幸い諏訪清陵高校出身の先輩ドクターも多く、医者同士のヨコの繋がりに加えて、清陵生というタテの繋がりもあるというのはかなりの強みである。一人でも多くの後輩ドクターができることを心から願っている。

精神科医 高木希奈（99回生）

<生徒感想>

全体に関わって

- ・まだなりたいものがはっきりしていないけど、今日の講演を聴いて、出会いを大切に、今できることをしっかりやっっていこうと思った。
- ・自分が思い込んでいるだけで、実際は違うことがたくさんあって面白いなと思いました。型に当てはめて考えないで、もっと柔軟に物事を考えられる人間になりたいと思いました。

- ・普段聞けない専門家の話を聞くことができ、良い機会だった。仕事の話だけでなく、講師の先生の人生経験や進路の話も聞くことができ、とても為になった。今回の講義を通して進路選択の幅が広がったので活かしていきたい。
- ・普段、全く接点がない社会人の方の考えというものを聞いてとても良かった。単純な進路の話だけでなく、社会で生きるマインドなども教えてもらったのでとても参考になった。

①文学 三澤陽一 (102回生) (小説家)

- ・「大きなことに挑戦する」ことが大事だとおっしゃっていたけれど、失敗しても成功しても得られるものがあるんだなと思った。三沢さんは小説を何回も応募して最終選考で落とされても、挑戦して成功したので、挑戦を続けることは大切なのだなと思いました。
- ・「努力と苦勞をイコールで結んではいけない」という言葉が印象に残った。努力すること＝苦勞することだと思っていたので、その考え方を覆されたし、そんな努力をしてみたいと思いました。
- ・「お金では買えない大切なものがある」「本物を見ること」など、人生を豊にするためにどうすれば良いのかがよくわかった。自分が考えている進路とは全く違う職業の人の話がきけて、とても参考になった。
- ・三沢さんの「他人の人生に口出しをしてはいけない」ということがすごく心に残った。小説家というめったに接点がない方のお話を聞くことができ、とても良い機会になった。中学まではよく小説を読んでしたが、高校になって全く読まなくなってしまったので、時間を見つけてまた読みたいと思った。

②経営 小林広治 (94回生)

((株)キズナキャスト)

- ・物事を無くしたらどうなるか考えて、その変化がその物事が存在する意義だ、というところがとても心に残りました。なぜ勉強しているんだろう、というのも、その根本を考えてその始まりを考えれば分かる気がしました。仕事にあまり前向きな気持ちがなかったけれど、意味を考えたり生きることを考えたりすると、仕事をして生きていくことがスッと入ってきてびっくりしました。
- ・小林さんのお話をきいて、自分も何をしたいのか、何のために行うのかということを考えようと思った。私は自分の将来の方向について悩んでいたが、今回の経験で1つの新しい考え方に巡り会うことができ良かったと思う。
- ・とても面白い講演だった。自分が進路を考える方法みたいなもの、「考え方」を学ぶことができ大変になる時間が過ごせた。
- ・一人の能力が全てではなく、誰かと足りないところを助け合う力が必要だと教えてもらい、人との関わり合いを頑張りたいと思った。

③社会 北沢 聖 (87回生)

((株)日鉄ソリューションズ)

- ・やる気マップというのがすごく良いと思ったので自分でもつくってみようと思った。30年後の世界は想像すらできず、教えられることが少ないので「環境の変化に対応して自らを変えていく」ことが大切なのだと分かりました。
- ・「自分を科学する」という言葉がとても心に残りました。変化する自分を楽しんで生きていきたいと思いました。ありがとうございました。

- ・北沢先生のお話の中で特に心に残ったのが「知識は興味への“とっかかり”」という言葉。勉強する中で、自分の興味を見つけていくことが勉強の意味なのかなと感じた。将来は複数の職をやらなければいけないことを覚悟すべきだという言葉に、これから自分たちが生きていく社会の難しさを感じた。
- ・変化に対応できる“脳みそ”を鍛えることが大切であり、そのためには「読む力」を付けることが必要だという話がとても印象に残りました。

④医学 高木希奈 (99回生) (精神科医)

- ・自分の将来とも深く関わる可能性がある内容だったので、医学界の真の姿を知ることができ、大変なためになった。今まで医師はなるのが大変だが、なってしまうとメリットばかりがあると考えていた部分があったが、全くそんなことはなく、厳しい現状があることも知ることができ、自分の将来を深く考えられる良い機会になった。
- ・将来の職業はいろいろな関係性を考え選ぶべきだが、やりがいをもつべきだ。大学の入学が目標ではなく、その後の人生が大事だということ高木先生の話聞いて感じた。
- ・医者意外な一面を垣間見ることができてとても面白かった。精神科医ということで、身体的な痛みではなく内面的な治療を行っていて、目に見えない病と闘うのは大変だと思いました。しかし、高木先生はそんなところに「やりがい」を感じて困難をあえて楽しんでいる姿があり、とても尊敬しました。
- ・医師という仕事のメリット・デメリットを聞くことができ、これからの参考にしていきたい。「頭がいい、勉強が

諏訪の酒 真澄です。

真澄



MASUMI
SUWA 1662

人 自然 時を結ぶ

人を結ぶ — 人が集う和やかな食卓の実現、そのための良質な食中酒造り。
自然を結ぶ — 負荷を最小限にしてより良い自然環境を継承する。
時を結ぶ — 文化の継承。新たな価値の創造。

七号酵母発祥蔵元

宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16
TEL: 0266-52-6161 FAX: 0266-53-4477



真澄ホームページ

できる、だけで医者になって欲しくない。医者になったら学歴は関係ない」とおっしゃっていたことがとても印象に残っているので、先生がおっしゃっていたようにコミュニケーション能力をつけられるようになりたいと思った。

⑤理学 小松文美 (91回生)

((株) CSLペーリング)

- ・一つのきっかけで自分の将来が変わることが分かりました。私は将来の夢が決まっていなかったので、そのきっかけを見つけるためにも、いろいろなことに挑戦して行きたいと思いました。薬の話は興味があって、副作用の話などからたくさんのが学べて良かったです。「夢の代謝サイクル」の話を聞いて、一歩踏み出す勇気を持ちたいと思いました。
- ・講義の中で「計画的偶発理論」という言葉を知り、柔軟性があれば自分の将来をどのようにも変えることができるということを教えていただいた。ずっと同じ志を持ち続けることを美德とする考え方もあるが、その場その場で自分のやりたいことを選択してステップアップしていくという生き方もあることを知り、将来に対する不安が少なくなったように思う。
- ・副作用の心配をせず、私たちが安心して薬を利用することができるのは、小松さんのような方をはじめ、いろいろな人たちのおかげなのだと思えて感じた。小松さんの、自分のやりたいことに妥協せず「挑戦」する勇気に憧れました。私も将来はやりがいのある仕事ができるよう、今はできることを精一杯やるようにしたいと思いました。

⑥理学 宮坂広夫 (82回生)

((株) ライオンハイジーン)

- ・決まった枠にとらわれず、自分の道を進み、人の意見に左右されないようにしっかりと自分を持つこと、そして正しい判断をすることが大切だと教えてもらった。
- ・考え方一つで見方または見せ方大きく変わることが分かりました。大事な場面では一つの考え方だけでなく、様々

な考え方を持てるようになりたいなと思いました。

- ・講演の本題に入る前に、錯覚の具体例をいくつも記したプリントで、実際に錯覚の体験をさせてくれ、興味を引くように講演に入ってくれたので、とてもわかりやすかった。
 - ・とてもユーモアにあふれた楽しい講演で、人生の経験だけでなく、自分たちの認識の甘さ、そして見えているものすべてが正しいとは考えない精神、正しい認識を求めて努力することの大切さを学ぶことができた。
- #### ⑦工学 村田和広 (87回生)
- ((株) SIJテクノロジー)
- ・工学系の職に就いた場合の将来というのが、すごく明確にわかった。自分が大人になった時のイメージというものが、少しもてるようになり、進路の参考になった。工学系の大学に入った後のストーリーみたいなのを説明してもらったので、それを元に大学を決めていきたいと思った。また、大学院が有利になるという話があったので、そのことも考えていきたい。
 - ・エンジニアは、大変な作業が長く続くが、世界中の人の役に立つ事ができる素晴らしい仕事だと分かった。大学に

よって将来の就職が決まるので、しっかり細かく調べて決めたいと思った。

- ・これから発展していく分野や、大学選び、大学院選びの際の着眼点などを学ぶことができて良かった。村田さんが言っていたように「challenge more」という言葉を常に頭の片隅におきながら生活、勉強していきたいと思った。

<総括>

高度な情報化社会の中で生活している高校生達は、各自が所持しているスマートフォンから瞬時に様々な情報を引き出し利用することができますが、ネット上の情報に振り回され「生身の人から語られる本物の情報」に触れる機会が少ないのが現状です。そのような中であって、同窓生の豊かなご経験から語られる「生きた言葉」の数々は、多くの生徒達の心をつかみ、自分を見つめ直す良い機会となったことと思います。このような取り組みを今後も継続して行っていければと考えています。これからもよろしく願っています。最後に、概要でも書きましたが、今回台風の影響がある中、後輩のために長野新幹線経由で来て下さった講師の方々に深く御礼申し上げます。

(高校教員 担当/原 光秀)

母校生徒交流企画

2019年6月22日～23日 第69回清陵祭に参加

清陵祭に同窓会が初出展、同窓会会報の拡大展示やDVDの上映など、来場者に同窓会活動への理解を求めました。運営は次年度当番幹事87回生が担当しました。

「同窓生であること」

玉田(山村)千恵(87回生)

昨年、同窓会展示物の案内係として清陵祭に出かけました。同窓会とは全く無縁だった私ですが、87回生が運営すると聞き参加を決意しました。前日に諏訪へ戻って実家の用事をすませ、当日の朝、懐かしい母校へ足を運びました。

清陵祭が始まって1時間ほど経ち、4人の男子大学生グループを展示室に案内しました。20歳だという彼らは、展示室を2周ほどすると「先生ですか?」と私に問いかけ、私が「卒業生ですよ」と答えると、照れくさそうに笑って「ありがとうございました」と言ってお出でいきました。初対面にもかかわらず、私は彼等を応援したくなるような不思議な気持ちになりました。

お昼近くになると、各分野での活躍が顕著な卒業生の一覧表に足を止める人が増えてきました。すると私の隣に立ったシニア

の方が「この人ね、ボクの同期生なんだよ」と伺って、ある卒業生の欄を指さしました。私は亡くなった父と同じ61回生であることに気づき、思い切って父の名前を出したところ、「あなたの目にはお父さんの面影があるね」と笑顔で答えてくださいました。お互いに同窓生であるというだけ、ただそれだけのご縁でしたが、同窓生とは良いものだなと感じられた1日でした。



社会3番教室前の卒業生の展示コーナーにて

2019年度 総会・懇親会の報告

東京清陵会 第53回総会・懇親会報告

参加者：192名、幹事学年だけでは、対応できず89回生はじめ多くの方々のバックアップをいただき無事終了することができました。今回の投稿するために、ワイワイと集まることを検討しましたが、コロナにて断念。感想や意見を幹事学年の仲間から集めてみましたのでご紹介します。

反省点

- ・多くの多様性を感じたけど、若者の意見を聞けなかった。
- ・86回生のおやじが出しゃばった感じもあった。
- ・若者の意見も「忖度のない発言」を引き出せるといいかな？
- ・30代、40代のメンバーの意見を聞きたい！今の世の中、どう感じているのかな？
- ・年寄のために、若者が汗をかく。と感じてしまった、若者のために、幹事が汗をかくのがいいような気がします。
- ・諏訪、諏訪出身の若者を応援するような形にしたい。
- ・若者を如何に集めるのか？年配だけで繋がることの意味があるのか？メリットを見せて、若者を集めることができるのではない？
- ・行けない人、集まれない人が参加できる同窓会に挑戦したい。
- ・もっともっと、有機的な関係構築のできるような「同窓会」を目指したい。

良かった点

- ・進んでいるはずの時代、古さを感じる。けど昔の仲間と始めるきっかけにはなる。
- ・幹事学年が55歳はいかがなものか？と思ったけど、同期との交流を見直す機会にはなるのではないかな？
- ・過去の通例の延長ではない時代の変化を体感できたように思う。
- ・たまたま、海外出張メンバーも参加できたけれど、新しい同窓会の形を考える機会になったのか？時代の先取りになった？(オンライン呑み会の走りでした(笑))。
- ・地元や清陵を改めて考え直す、すごく



清陵カフェin 東京の様子

- いい機会になった。
- ・帰る機会が増えて、まだまだ大丈夫とずっと先延ばしにしていた、親との今後の話をするタイミングも得られた。
- ・高校生活の中では得られなかった上下の繋がりもできた。
- ・同期も含めて清陵卒業生に本当にたくさん偉い人がいっぱいいることがよくよかった。
- ・総会幹事の機会がなかったら総会には参加していないと思う。幹事をきっかけに同窓生と繋がりを持って嬉しい。幹事の任自体は本当に大変だったけれど得たものは大きさをなく人生が変わるほど大きかったと感じている。

その他感想

- ・幹事やってみて、幹事学年で一体感を感じられたけど疲れた。
- ・いままでの形にとらわれずにやったことで一部の皆さんからもご評価いただいたけど、正直、工数が大変かかった。みなさんの応援無しには実現できなかった。

- ・同期のやっていることを理解することにはなったけど……。
- ・清陵カフェは究極の自己満足でした(大変失礼!)けど、正直、予想以上にうまくいったと思う。
- ・正直なところ個人的には革新的な手法(カフェ形式とかオンライン参加とか)には後ろ向きで、その点で何も力になることはできなかった。なんのかわりで乗り越えて実現させていった同期のみんなすごいって思った!
- ・同窓会を通じて、ビジネスチャンスを広げていくこともいいけれど……。
- ・「清陵カフェin 東京」は諏訪での総会からの出発なので、そこから少しでも工夫できたと思う。ハプニングもあったけれどオンライン参加が上手くいった良かった。

以上はいくまでも一部の意見や感想をそのままのせましたが、ほかにもいろいろありました。このように感想を聞く中でも、同窓生の「多様性」を感じました。

幹事代表 細田 明(86回生)

第52回東京清陵会 総会アンケート結果

昨年の同窓会で行わせていただいたアンケートの結果を報告します。紙面の都合から、Q1からQ5とQ10を掲載させて戴くこととしました。皆さまの貴重なご意見は今後の活動に反映させていただきます。

回答総数:113 内男性74名 女性32名(未回答/複数回答、性別不明もあり、各設問の回答数の合計は必ずしも総数に一致しない)。

表中 数字は人数、%は全回答者に占める割合。

Q1. 同窓会の魅力、役割とは？

(複数回答可)

②が67%、次いで③が51%。同窓会は交流の場として捉えられている方が多数。

	男		女		全体	
①清陵当時、原点の再認識の機会	36	49%	13	41%	52	46%
②同期、近い世代との交流	53	72%	20	63%	76	67%
③先輩、後輩など多世代との交流	40	54%	18	56%	58	51%
④同窓生との研鑽の機会	12	16%	6	19%	19	17%
⑤活躍する同窓生の誇り励み	19	26%	10	31%	30	27%
⑥母校生徒との交流、支援	5	7%	3	9%	8	7%

Q2. 同窓会の魅力を高めるために、

充実させたいことは？

①が全体の53%を占め、参加する若手中堅会員の数を増やすことへの期待が高い。

	男		女		全体	
①若手中堅会員の増強	39	53%	18	56%	60	53%
②女性会員の増強	12	16%	10	31%	23	20%
③総会活性化	22	30%	5	16%	28	25%
④行事の充実	16	22%	3	9%	20	18%
⑤会報の充実	7	9%	1	3%	9	8%
⑥ホームページの充実	29	39%	8	25%	38	34%
⑦母校生徒との交流、支援の拡充	10	14%	7	22%	17	15%
⑧魅力の再定義	16	22%	10	31%	26	23%

Q3. 総会当日の魅力拡大には？

(複数回答3つまで)

企画「清陵カフェ」の影響もあったためか、②テーブルでの交流が過半数を占めた。また③の懇親タイムの充実を求める意見も多かった。

	男		女		全体	
①同窓生講演スピーチの充実	27	36%	12	38%	41	36%
②テーブルでの意見交換、交流の充実	46	62%	18	56%	66	58%
③懇親タイムの充実	32	43%	18	56%	53	47%
④同窓生の発表(演奏、特技など)	17	23%	10	31%	27	24%
⑤母校や生徒の情報還元	16	22%	2	6%	19	17%
⑥同窓生以外の著名人の講演	9	12%	7	22%	16	14%
⑦娯楽要素(福引きなど)	12	16%	0	0%	12	11%

Q4. 会員増強(登録拡大)に

必要なことは？(複数回答3つまで)

①が58%と、同期会との連携を強化すべきとの意見が大半を占めた。

	男		女		全体	
①同期会の協力	43	58%	19	59%	65	58%
②総会の活性化	19	26%	3	9%	23	20%
③行事の拡充	11	15%	4	13%	17	15%
④ホームページの充実(会員登録機能)	32	43%	8	25%	41	36%
⑤会報の充実	22	30%	13	41%	35	31%
⑥会員交流機会の充実	14	19%	3	9%	17	15%
⑦女性登録の拡大	6	8%	5	16%	11	10%

Q5. 同窓会の魅力を高め、活動活性化

のために充実させたい行事は？

(複数回答3つまで)

男性は④が41%と勉強会への期待が高い一方、女性は⑦の趣味など継続活動が31%となっており、意見が分かれている。

	男		女		全体	
①新歓	17	23%	4	13%	23	20%
②働くことを考える若手の会	5	7%	5	16%	10	9%
③ミドル交流会	13	18%	8	25%	21	19%
④勉強会	30	41%	8	25%	39	35%
⑤ゴルフ会	3	4%	1	3%	5	4%
⑥女子会	3	4%	6	19%	9	8%
⑦趣味などを継続活動する会	21	28%	10	31%	33	29%
⑧母校生徒との交流会	17	23%	4	13%	21	19%
⑨芸術系の集い	9	12%	9	28%	19	17%
⑩ビジネスネットワーク	15	20%	9	28%	26	23%

Q10. ご意見・ご要望

総じて清陵カフェのテーブルでのディスカッションに対する好意的な感想が多かった。

- ・テーブルのディスカッションは新しい企画で、年代を超えた交流ができよかったかと思います。(50歳不明)
- ・大変良い企画を考えていただきありが

とうございました(清陵カフェ)。(50歳女性)

・本日は大変有意義に過ごさせていただきました。今回の様な同窓会を期待しま

すが、大変だったでしょう？

結果まとめ：北沢 聖 (87回生)

2019年度イベント報告

昨年度は諸事情により、新卒歓迎・学生交流会とミドル交流会は開催することができず、「働くことを考える若手の会」と「女子会」でのイベントだけが行われています。今年度も開催未定のところもありますが、より多くの皆様のご参加をお願いします。(組織委員会)

第5回 働くことを考える若手の会

令和元年11月24日(日)13時30分より東京しごとセンター5階セミナー室において開催されました。当日は原大会長のご挨拶の後、小池伸さん(106回生)明治薬科大学 分析化学教室助教、平林 怜さん(115回生)三菱UFJモルガンスタンレー証券、秀島真奈さん(116回生→117回生)三菱UFJ銀行のお三方にパネリストをお願いして、発表を行いました。その後、パネリストの皆様と一緒に登壇していただき、総合討論・意見交換を30分くらい行って16時に終了しています。以下、パネリストの感想を紹介します。

まずはこのような貴重な講演の機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。

私はこの講演をお引き受けしてから、就活も経験していない大学教員としての角度で「働くこと」についてお話すべきか悩んでおりました。結果的に、自分の現状を好き勝手しゃべってしまい、会のテーマに応えられていたか自信はありません。ですが、私自身は皆様からたくさんのご助言を戴くことになりました。失敗し、悩み、また失敗し、それでも向上心をもって諦めず、自分の信念を貫き戦う。改めて、これは清陵生に共通する



資質だと気付かされました。プロダクトは職種ごと違って、そこに至る精神的なプロセスは似ている。教育と研究は毎日失敗ばかりです。自分の職を異質と感じていた私には新鮮な気づきでした。

物事は論理的、批判的に考察しなさい。研究者であれば一度は師から言われる言葉で、昨今は～シンキングといった形で一般に浸透しております。この会を通して参加者の皆様は、ご自分の経験や将来について論理的、批判的に分析され語られているのが印象的でした。清陵生の「研究者魂」を見せつけられた、そんな一日となりました。

改めて皆様にご挨拶申し上げます。

小池 伸(106回生)

社会人になってから中々足の遠のいてしまっていた東京清陵会のイベントでしたが、社会人4年目という少し日々の生活に余裕ができたタイミングで今回パネラーのお話を頂き参加させて頂くこととなりました。今回は学生向けの会と伺っておりましたので、私の就職活動を振り返りながらお話させて頂きました。5年ぶりに何故証券という仕事を選んだのか、当時の心境などを思い出すことができ、今は改めて入社当時の気持ちで外交することができております。また30歳とい

う多くの人がキャリアプランについて考えることの多くなる年齢を目前にして、私もその例外ではなく「働くこと」をもう一度考える時が来ております。小池さん、秀島さんは勿論清陵生の話は今も昔も本当にいい刺激が貰えますし、自分に足りない感覚、視点を与えてくれます。数年後もしもう一度パネリストを務めさせて頂くことがあれば、私がどのような選択をしたのか、どんな考え方になっているのかご報告させて頂ければと思います。ありがとうございました。

平林 怜(115回生)

今回は、進路選択の岐路に立つ学生向けということでお話しする機会を頂戴しました。実際「働くこと」は漠然とした概念だと思います。私も学生のときは「働く」の定義を人に尋ねては納得したような、しなかったような曖昧な感想を持ったまま、社会人になりました。社会人になったからといって突然天啓がおりて分かったわけでもなく、ただ、今一つ言えるのは、社会人になることで一つ自分の選択に責任を持てたということ。悩み多き学生に、同じ様な悩み多き先輩がいた、そんな風にとらえ、少しでも心の支えになれたのであれば幸いです。

秀島真奈(116回生→117回生)



東京清陵会女子会

2019年は2回のイベントを開催しました。5月11日、神田明神祭りの神輿の賑わいの中、神保町のレンタルスペースにて、久々の女子会を開催しました。当日参加は10名。少人数ではありましたが、席に着いたとたんに、皆さんの弾丸トークが泉のように沸き上がりました。初めてのレンタルスペース&ケータリングでの女子会開催でしたが、周囲を気にせず話ができ、良かったかと思えます。出席した皆様からは「ホームパーティみたい」と感想をいただきました。

また、2回目は7月20日に、新企画として東京在住の女性同窓生にリレー形式で講演をしていただく「AFTERNOON TEA SEMINAR」と称したミニ講演会を開催しました。初回は副会長でもある守矢早苗さんに「伊藤長七先生と校歌」というテーマで、守矢さんが勉強会にて長らく学んだことを、初心者にもわかるように教えていただきました。校歌の作詞者である、伊藤長七先生が校歌に込めた意味を、そのころの時代背景と合わせて解説いただき、今までに知らなかった



伊藤長七先生の行動力、改革力などを知ることができました。

講演の後には、おなじみ GRANNY SMITH のアップルパイとお茶で歓談。参加者の皆さんそれぞれのお話を伺うことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

今回は、初めての試みとして、女子部企画で、参加者は男女問わずという催しでした。今後とも女子部メンバーとも話し合いながら、いろんな企画を進めていきたいと思えます。

女子部事務局 佐藤美智子 (88回生)



新任常任幹事挨拶

この度、常任幹事に就任いたしました89回生の吉中(旧姓:天野)宏子です。出身は諏訪西中学(中洲)、清陵時代はバスケット部に所属していました。当時はまだ女子も少なく先輩は5名、私たち1年生が6名、マネージャー1名(計7名)で入部し、初の女バス10名超え!と大歓迎された事を覚えています。

今では現役の清陵生はもちろん、同窓会にも女子が増え、先輩方のご尽力で女子部も立ち上がり様々な活動も行われています。

東京清陵会も、88回生の佐藤美智子さんが中心となり、誰もが気軽に参加できる企画を考えてくださり、同期だけでなく、回生を超えた繋がりも持て、改めて同窓会の存在に感謝しております。

卒業以来、なかなか会えなかった同期や同窓生と再会できたり、情報交換ができる機会が持てるのは、楽しみの一つでもあり、元気を沢山もらえる充電の場ともなっています。

コロナ禍の状況下、直接会うことが難しい時期となり、総会の延期やオンラインを通じての会議等、今後の状況も変化していく事が考えられますが、皆様が清陵を思い出し、心が温まるような発信や活動ができるよう、また女子会ならではの楽しい企画も考え、同窓会の一員として頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。吉中宏子(89回生)

はじめまして。97回生の齋藤(旧姓:後藤)理恵と申します。上諏訪学生団出身、端艇部所属でした。東京在住になった2007年頃から諏訪及び清陵との繋が

りが深まりまして、この程、常任幹事を担当させていただくこととなりました。

東京清陵会の活動では特に女子会が印象的です。社会の第一線で活躍されてきた女性の先輩がたと意見交換をさせていただき、そもそも暮らしの中で出会うことのできない方々と同窓会のイベントでお会いできることに衝撃を受けました。すぐにビジネスに繋がったり、ご利益があるという関係性ではないかもしれませんが、緩やかに人を繋げていける同窓会という独特の組織に面白さを感じております。女性vs男性という括りに縛られずに活動できることが理想ですが、まだまだそうはいかない世の中ですので、何かの時に話せる女性の先輩がいる……と後輩の方に思っていただけのような存在になれればと考えております。どうぞよろしくお願致します。

齋藤理恵(97回生)

同期会活動紹介 ～67回生～

「終戦っ子」麓七会の仲間は今

67回生の大半は昭和20年生まれです。その為終戦っ子と呼ばれたものでした。同期会は第一校歌冒頭の八ヶ岳に敬意を表して「麓七会」と称しております。

同期生は約250名、内女子が11名です。6クラスに各2名、一クラスだけは1名でした。同期会は暫く行われておりませんがクラス毎の集まりは頻繁に開催されています。以下に各クラスの状況をお伝えします。二部、三部については詳細が把握出来ませんでしたので別の機会にお知らせしたいと思います。(平林千義)

[一部] 最後まで第一線で頑張っていた丸茂義典君も引退し、皆余生期に入っている。惜しくも矢島忠男君が病没したが首都圏近郊に健在の一部の6～9人が年に一度顔を合わせ、時にはI君の山荘で清陵時代のカレーコンパを再現し、U君邸でソバ打ち大会を楽しみ、あるいは地方から上京した同級生を囲むこともある。三浦久君の吉祥寺パブでの年末フォークソングコンサートは4年前に終わってしまいました。メールで近況を交換しているが、昨今の武漢肺炎では、皆「高齢者、基礎疾患持ち」に該当するんだと気を

引き締めあっている。第二の人生で一念発起し、デザイン腕を磨く人、五街道の全宿場を走(歩)破する人、50年ぶりに数学の論文を提出する人、田舎の田畑作業に春夏忙しい人など、まだまだやり残していることに余年がない。

(藤森弘章)

[四部] 担任の牛山正雄先生に因んで「麓七牛正会」と称し時折旧交を温めて居る、同級生は43名、内物故者は8名、写真は2018年11月14～15日に上諏訪の紅やで開催されたクラス会(参加者11名)の折訪れた中洲の牛山先生のお墓参りにて。

(平林千義)



[五部] 毎年年末に忘年会を開催している。写真は2019年12月14日新宿ライオンに

て(参加者14名)、浜勝堂君撮影。

(小平 攻)



[六部] 同級生42名、内物故者6名が現状です。毎年同級会を開催し、長野県内の名所旧跡や美術館めぐり、夜には懇親会。古希記念に同級生文集を作成。修学旅行と称して海外では、当時宮下君が勤務していたハワイ島スバル天文台見学、芳沢君が赴任していたヴェトナム工場を訪問し東南アジアへの企業進出の現状を見てきました。国内では、2017年3月12日～14日、参加者13名、東日本大震災の被災地を訪問し、震災の恐ろしさを学習するとともに被災地支援について考えました。愛好者によるゴルフ会も開催しています。

(長崎政直)

広報委員会

新しいホームページが完成

広報委員長の99回生荒木健太郎です。いつも同窓会活動にご協力いただきまして有難うございます。より多くの同窓生に、東京清陵会の活動を知って欲しい、同窓会活動に参加して欲しいという思いで活動しております。

まずはHPについて、先輩のご尽力をいただき、新しいホームページが完成しております。

徐々に内容を充実しておりますので、是非一度ご覧いただくと幸いです。

www.tokyoseiryokai.jp

会報のバックナンバー閲覧、清陵勉強会の情報、各イベントの情報が掲載され

ております。これからも、ホームページの機能を向上させ、同窓会や各種イベントの告知&出欠確認、同窓会年会費・賛助金の納入、タイムリーな情報更新など、もっと利便性高くなりたいと妄想しております。費用面や人材面の課題がまだまだありますが、解決のアイデアや、こういうHPにして欲しいなどと言ったようなご意見をいただけると嬉しいです。

もうひとつが、SNSの積極活用です。FaceBook、LINE、Twitterなど、若い世代にも同窓会のことを知っていただく手段として、有効なのではと思っております。しかしながら、既に43歳の中年

世代、個人で使うレベルが限界、広報活動として使用するまでの知識が無い為、中々具体的に活用が進んでいないのが現状です。既に、ここに挙げた手段も古いよ、という声も聞こえてきそうですが、こちら側から積極的に発信が出来るSNSについても、是非詳しい方からアドバイスやトレンドなどを教えていただきたいと思っております。イベントの周知や集客、活動報告などを、多方向から実施し、少しでも接点を増やせるようにしたいと考えております。これからも東京清陵会活動の応援よろしくお願ひします。

荒木健太郎 (99回生)

2019年の清陵勉強会

今でも変わらないが、これまで多くの清陵同窓生が各方面で活躍し、いろいろなジャンルで研究、あるいは実務に優れた業績を上げている。しかしながら、このことを知る人はあまり多くなかった。

このことから1990年にそれぞれの人たちの挙げられた成果を披露してもらう場として清陵勉強会が始まった。現在も各方面で活躍している清陵OB・OGの専門を生かしたテーマを選定した講演を

行っている。1990年の第1回から2019年までで179回、偶数月の火曜日に開催しているが、これまで1回も休むことなく継続した。しかし、2020年はCOVID-19により中断を余儀なくされている。コロナの嵐の後には必ず復活させる覚悟だ。

清陵勉強会世話人 有賀一温

174回 2月26日	白田 孝	84回	「新しい1キログラムの測り方」 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター長。
175回 4月23日	伊藤 洋一	71回	「つながるクルマの近未来」 株式会社 三井住友トラスト基礎研究所 主席研究員。
176回 6月25日	後藤 敏	83回	「地域医療と法医学」 JA 長野県厚生連 富士見高原医療福祉センター 富士見高原病院 副院長。
177回 8月27日	両角 寛文	78回	「2020年代の移動通信の展望～5Gをめぐる～」 KDDI 株式会社 代表取締役副会長。
178回 10月30日	石埜 穂高	78回	「諏訪信仰と天皇制」 NPO 法人 jomonism 理事 『スワニズム』編集長。
179回 12月17日	一ノ瀬俊明	85回	「これからの暑さ対策」 国立環境研究所社会環境システム研究センター 主任研究員。



清陵勉強会はブログ (<http://seiryobenkyokai.blogspot.com>)、また東京清陵会ホームページ (<http://www.tokyoseiryokai.jp/>) で案内している。参加希望者はメールで seiryobenkyokai@gmail.com に申し込んでほしい。

追悼



寺島亮三さん
(58回生)

大きかった清陵勉強会での功績

「寺島亮三さんが亡くなった」との電話を有賀一温さんからいただいたのは、今年の2月2日のことだ。にわかには信じられなかった。私にとっての寺島さんのイメージは「いつも元気で快活」だったからである。

清陵勉強会がスタートしたのは1990年2月20日のことだ。発起人は、宮坂広作さん(故人、50回生、当時東大教授)、中村平治さん(50回生、当時東京外語大教授)、それに私(57回生、当時朝日新聞記者)の3人だった。

この3人が宮坂さんの発議で東大構内で会合を持ったのは前年の1989年12月22日。その席で、宮坂さんがこう切り出した。「11月9日にベルリンの壁が崩壊した。これを機に、世界と日本は大きく変わってゆくだろう。そうした

大転換に遅れないようにするためには、私たちはもっと勉強する必要がある。清陵OB有志による勉強会を始めよう」。中村さんと私は即座に賛同した。

勉強会のテーマや講師の選定、会場の確保といった実務を担当したのが世話人で、寺島さん(58回生)、矢崎悦郎さん(59回生、当時朝日新聞広告局)、それに私の3人がそのメンバーだった。この体制は2006年の第99回勉強会まで続いた。

寺島さんは当時、岩波書店に勤務していたから、出版界はもちろん、学界や文化界の内情に明るく、そのうえ、各分野で活躍する清陵OBと面識があった。講師を決める上で、寺島さんが仕事を通じて培ってきた豊富な人脈が大いに役立ったのはいうまでもない。勉強会の、稀に見る長期にわたる継続と充実といった点で寺島さんが果たした役割は極めて大きい。まさに、勉強会の功労者だった。

世話好きだった。生涯を通じて人間関係を大切に、対人関係ではよく気を遣い、誠実さを貫いた。こうした人柄と生き方が、清陵勉強会という場でもいかんなく発揮された。

私に関わる「平和・協同ジャーナリスト基金」の活動でもご支援をいただいた。

昨年(2019年)4月20日、寺島さんから封書が届いた。封を切ると、手紙とDVD1枚が出てきた。寺島さんが2018年暮れの第173回清陵勉強会でおこなった講演『清陵と私』を収めたDVDだった。私が所用でその勉強会に参加できなかったので、講演の記録を届けてくださったのだ。手紙には「小生といたしましては、(講演は)恥ずべきものであった、と反省しております」とあった。どこまでも謙虚であった。

これが、寺島さんからの最後の手紙となった。改めて謹んでご冥福を祈る。

岩垂 弘(57回生)

会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

2019年度会費納入者ご芳名(2019年4月1日~2020年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

62回 中谷 範行	63回 両角 實	66回 宮島 忠之	69回 藤森 光彦	71回 磯野 康子	75回 安木 良術
62回 秋田 英一	63回 清水 洋右	66回 河合 三彦	69回 林 史章	71回 増澤 博和	75回 宮下 和彦
62回 宮澤 生行	63回 赤羽根 巖	66回 生越 万理子	69回 柳平 克利	71回 森 さと子	75回 小平 聡
62回 平林 紀史	63回 有賀 朝彦	66回 武居 秀夫	69回 柳平 三雄	71回 森 史朗	75回 有賀 一温
62回 木川 俊文	63回 小口 明秀	66回 五味 洋	69回 渡辺 泰弘	71回 松澤 良治	75回 伊藤 せい子
62回 松澤 洋充	63回 山田 善彦	66回 堀川 安久	69回 比田井 昌英	72回 笠原 勇二	76回 田沼 唯士
62回 北澤 夏司	63回 丸山 佳宏	66回 佐藤 武夫	69回 比田井 和子	72回 林 健康	76回 関屋 孝行
62回 堀 浩泰	64回 新村 恩	66回 宮坂 典子	69回 山田 計夫	72回 武居 俊夫	76回 田中 修
62回 金子 浩之	64回 武井 省吾	66回 林 央	69回 川村 美枝子	72回 野口 俊樹	76回 山本 哲也
62回 上原 光典	64回 林 直司	66回 長田 敏行	69回 功力 正行	72回 小口 邦雄	76回 石井 和夫
62回 矢島 辰一	64回 川村 洋二	66回 牛山 隆夫	69回 中村 正治	72回 小口 裕治	76回 大村 富範
62回 小林 國利	64回 小川 由英	67回 矢崎 宣利	69回 武村 光男	72回 市村 としお	76回 森田 益弘
62回 三澤 祥地	64回 花岡 忠史	67回 丸茂 義典	69回 茅野 泰幸	73回 原 大	76回 花岡 博茂
62回 河西 巴喜雄	64回 仁科 眞爾	67回 守矢 早苗	69回 矢島 正昭	73回 原 秀男	76回 原 正悟
62回 浜 武秀	64回 祖父江 宏三	67回 小平 攻	69回 宮坂 秀一	73回 本田 稔	76回 北澤 道子
62回 長田 宏子	64回 金原 恵介	67回 宮坂 榮一	69回 内藤 信明	73回 マディーン 啓子	76回 田中 修
62回 薩摩林 俊彦	64回 宮坂 秀	67回 増沢 和夫	69回 吉江 森男	73回 熊谷 靖樹	76回 前島 秀機
62回 小林 和男	64回 五味 勝	67回 原 美津子	69回 濱 照彦	73回 窪田 敏	77回 薩摩林 恭子
63回 尾澤 弘久	64回 海野 光三郎	67回 細川 正行	70回 石田 和夫	73回 伊藤 俊巻	77回 春日 敏彦
63回 藤森 宏一	64回 小林 宇夫	67回 平林 千義	70回 垣内 国光	73回 両角 誠	77回 伊藤 潔
63回 亙理 美代子	64回 渡辺 紹司	67回 岩間 大和子	70回 功力 明美	73回 五味 信治	77回 田添 珠実
63回 荒木 信行	64回 酒井 捷夫	67回 浜 勝堂	70回 小林 金好	73回 ニツ木 淳子	77回 金子 恵子
63回 倉本 實	64回 井澤 正行	67回 武田 英太郎	70回 米澤 英樹	73回 山田 文雄	77回 小林 良人
63回 米山 迪男	65回 春日 芳夫	68回 小林 盛男	70回 土橋 務	73回 和泉 桂子	78回 宮坂 彰志
63回 齊藤 亨	65回 今井 忠雄	68回 進藤 秀一	70回 竹村 善隆	73回 山田 雄一	78回 両角 寛文
63回 中村 詔行	65回 河西 靖浩	68回 藤森 照信	70回 平山 哲三	74回 金井 良一	78回 東城 清秀
63回 河西 武彦	65回 関 紀雄	68回 赤羽 清明	70回 喜内 静美	74回 北原 嘉泰	79回 山口 光男
63回 金井 英雄	65回 田中 揮一	68回 小口 定男	70回 中村 典男	74回 岩本 敏男	79回 原田 健
63回 柳沢 寛	65回 松田 昌憲	68回 名取 與平	70回 清水 英俊	74回 五味 克成	79回 飯田 良
63回 宮坂 尚利	65回 小松 功	68回 春山 明哲	70回 久保田 功一	74回 小口 寿彦	80回 工藤 千秋
63回 五味 正得	65回 伊東 郁夫	68回 宮坂 静	70回 大久保 健	74回 土屋 彰男	80回 花岡 友子
63回 贄 靖二	65回 荻原 達朗	68回 原田 盛夫	70回 一瀬 益夫	74回 松縄 茂	80回 米澤 あ子
63回 浜 研二	65回 堀内 元雄	68回 小島 一郎	70回 唐木 康正	74回 白鳥 清	80回 青沼 裕之
63回 牧 成治	65回 松本 禎之	68回 小林 史宜	70回 藤森 行雄	75回 柳沢 治通	81回 松原 雅子
63回 溝口 登	65回 金子 充宏	68回 古河 仁	70回 小口 隆夫	75回 伊東 晴俊	81回 小口 久雄

事務局より連絡

1. 同期(各学年)単位で会員登録を進めましょう

首都圏の同窓生は5000人以上。登録者は4200人(内転居先不明者が1200人)、未登録在住者は推定1000人以上。会報未着の方は登録されていません。同期10人集まれば、4人は未登録の可能性あります。①学年幹事未選出学年(役員改選案ご参照)は学年幹事の選出(当番幹事学年[55歳]の87回生以降は男女複数幹事の登録)をお願いします。②学年ごとにまとめて事務局アドレス(表紙記載)に登録をメールください。SNSなど探索、登録には本人同意必要。③東京清陵会全体で3年間に300人(潜在会員2000人強の15%)の登録を目指します。④登録数最多学年を会報・HP・総会等で表彰します。

2. オンライン会合を始めます

新型コロナでリアル会合が出来ず代替方法として、勉強会・事務局会議をオンラインでトライアル開催しました。幹事会も

検討中です。これまで、会合に参加するのは億劫、行き帰りが大変などの声もあり、自宅でオンライン参加できる仕組みを作ります。参加希望者は勉強会・事務局それぞれのアドレスにメールで申込みください。年会費納入対象学年(26~79歳学年)は年会費納入が参加条件です。年会費振込用紙が会報に同封されます。宜しくお願いします。

3. 「魅力を高める3つの構想」(p9事務局提言)を検討します

3つの構想については、2020年度は構想を固めるべく、7月の学年幹事会で報告、トライアル開催できたらと考えています。具体的には、構想ごとに8月に発起人を募集し、9~10月にオンライン会議でキックオフし、活動計画を立てていただきます。計画は11月の事務局会議で確認し、2021年度の本格活動を視野に入れ、12~3月にトライアル開催(オンラインを含む)も検討します。HPに適宜掲載する予定です。

81回 浜 徹	83回 岡本 徹	84回 赤羽 俊昭	86回 宮澤 俊樹	88回 藤森 裕基	92回 高原 由紀子
81回 矢崎 理恵	83回 森 政宏	84回 清水 信次	86回 林 聡一	88回 倉科 和則	94回 小林 広治
81回 伊藤 愛一	83回 松崎 任宏	84回 野村 典亨	86回 原田 潔	88回 須藤 美香里	94回 原 実
82回 青木 基浩	83回 宮内 政彦	84回 飯田 秀機	86回 岸 真奈美	88回 佐藤 美智子	96回 熊谷 和則
82回 三井 哲志	83回 小平 俊史	84回 小口 和彦	86回 降幡 浩康	88回 村山 光義	96回 濱 真由美
82回 河西 龍彦	83回 中村 美穂	86回 谷 寿々子	86回 細田 明	88回 矢嶋 肇	97回 齋藤 理恵
82回 篠原 誠一	83回 内川 昇	86回 大久保 淳一	87回 蟹澤 啓明	89回 金子 哲哉	99回 荒木 健太郎
82回 北原 讓	83回 伏見 升成	86回 武居 孝	87回 浜野 崇	89回 両角 はるか	99回 北澤 俊二
82回 竹内 雅彦	83回 倉田 重子	86回 植松 盛夫	87回 北原 希至子	89回 佐藤 吉英	106回 小池 伸
82回 有賀 進	83回 中村 史枝	86回 波賀 かおり	87回 北沢 聖	90回 荒井 要	
82回 小野 隆吾	83回 小松 裕	86回 青木 裕子	87回 平林 智彦	91回 藤森 裕司	
82回 金子 勝彦	84回 小海 健治	86回 武田 正利	87回 荻原 吉康	91回 北澤 久美	
83回 林 暢彦	84回 島崎 義都	86回 西川 博文	88回 増澤 浩一	92回 西村 和訓	

2019年度賛助金納入者ご芳名(2019年4月1日~2020年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

38回 北原 文雄	59回 小川 勝嗣	65回 田中 揮一	73回 原 大	81回 浜 徹	89回 両角 はるか
42回 黒河内 三郎	60回 河西 善実	65回 金子 充宏	73回 原 秀男	81回 小口 久雄	90回 荒井 要
44回 小口 斌	60回 池場 康友	66回 五味 洋	73回 本田 稔	82回 篠原 誠一	92回 高原 由紀子
46回 小泉 和明	60回 高木 祥勝	66回 長田 敏行	73回 マディーン 啓子	82回 青木 基浩	
48回 伊藤 恒好	60回 小川 浩史	66回 生越 万理子	73回 窪田 敏	82回 北原 讓	
48回 宮坂 勝郎	60回 宮澤 政文	66回 堀川 安久	73回 伊藤 俊巻	82回 竹内 雅彦	
48回 鈴木 徹	60回 永田 郷雄	66回 河合 三彦	73回 和泉 桂子	82回 金子 勝彦	
49回 代田 繁夫	61回 山崎 宏三	66回 武居 秀夫	74回 北原 嘉泰	82回 小野 隆吾	
50回 五味 隆俊	61回 北原 隆	66回 林 央	74回 岩本 敏男	83回 森 政宏	
50回 寺島 敏郎	61回 山本 裕一	66回 宮島 忠之	74回 五味 克成	83回 松崎 任宏	
50回 舟岡 正男	61回 中村 隆一	67回 丸茂 義典	74回 小口 寿彦	83回 岡本 徹	
51回 林 将雄	61回 坂本 勇喜	67回 小平 攻	76回 関屋 孝行	83回 中村 美穂	
51回 小松 袈伴	61回 名取 将	67回 細川 正行	76回 田中 修	83回 小松 裕	
51回 小平 拓	61回 小金沢 彰	67回 平林 千義	76回 石井 和夫	83回 林 暢彦	
51回 横川 端	61回 早川 次彦	67回 守矢 早苗	76回 山本 哲也	83回 伏見 升成	
52回 渡邊 義郎	61回 川村 昌平	68回 名取 與平	77回 薩摩林 恭子	83回 中村 史枝	
52回 中村 繁之	61回 細田 純一	68回 小島 一郎	77回 春日 敏彦	84回 小海 健治	
56回 下平 勝幸	62回 秋田 英一	68回 宮坂 静	77回 小林 良人	86回 武田 正利	
56回 中澤 金司	62回 金子 浩之	68回 小林 盛男	77回 田添 珠実	86回 岸 真奈美	
56回 藤井 真之	62回 中谷 範行	68回 春山 明哲	77回 金子 恵子	86回 宮澤 俊樹	
56回 渡部 清	62回 薩摩林 俊彦	69回 林 史章	79回 山口 光男	88回 藤森 裕基	
56回 林 哲也	62回 浜 武秀	69回 比田井 昌英	80回 工藤 千秋	89回 金子 哲哉	
56回 青木 瑞枝	62回 長田 宏子	69回 比田井 和子			
57回 小林 浩	62回 平林 紀史	69回 中村 正治			
57回 五味 乙	63回 溝口 登	69回 武村 光男			
57回 篠原 康夫	63回 尾澤 弘久	69回 功力 正行			
57回 大井 利夫	63回 齊藤 亨	69回 吉江 森男			
58回 木下 博介	63回 宮坂 尚利	69回 矢島 正昭			
58回 茅野 充男	63回 両角 實	70回 平山 哲三			
58回 堀田 裕人	63回 藤森 宏一	70回 久保田 功一			
58回 鈴木 由美子	63回 牧 成治	70回 大久保 健			
58回 寺島 亮三	63回 丸山 佳宏	70回 藤森 行雄			
58回 大西 暲三	64回 祖父江 宏三	70回 米澤 英樹			
58回 吉田 嵩	64回 新村 恩	70回 一瀬 益夫			
59回 向山 喜一	64回 五味 勝	71回 増澤 博和			
59回 矢崎 豊国	64回 海野 光三郎	71回 磯野 康子			
59回 城取 俊昭	64回 武井 省吾	72回 林 健康			
59回 伊藤 忠三	64回 林 直司	72回 市村 としお			
59回 堀内 敏宏	64回 仁科 眞爾	72回 故宮坂 幸男様			
59回 小松 守	65回 河西 靖浩	(ご遺族より)			

追悼

東京清陵会 事務局次長 小林正和さん(73回生)

東京清陵会の事務局次長を務める小林正和君が病氣療養中のところ、去る4月20日ご逝去されました。私とは清陵の剣道部の同期であり、そんな関係から特に私が副会長から会長を務めさせて頂いているここ数年、事務局次長として東京清陵会に多大なご支援を頂きました。彼が外国航路の船長を引退して、社長をしていた会社の事務所に東京清陵会の資料を置かせて頂き、会議室も使わせて頂きました。大変お世話になり心より感謝申し上げます。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。残念で堪りません。

原 大 (73回生)

東京清陵会の現状 データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおりである(2020年3月31日現在)。

1.東京清陵会会員の定義 (1) 首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木)在住の同窓生(ただし、退会申出者を除く)。(2) 転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。2. 会員現勢 総数2,869名(住所不明者1,392名を除く) (1) 都県別会員数 東京都1,315名、神奈川県590名、千葉363名、埼玉県353名、茨城県56名、群馬県21名、栃木県22名、その他149名 (2) 年次別会員数(別表) (2) 年次別会費納入者数(別表)

別表 年次別会員数と会費納入状況(2020年3月31日現在)

回生	現員	不明	計	会費
23-37	3	35	38	0
38	4	3	7	1
39	3	3	6	0
40	2	5	7	0
41	6	7	13	0
42	8	7	15	1
43	7	3	10	0
44	13	9	22	1
45	12	6	18	0
46	16	12	28	1
47	19	6	25	0
48	37	7	44	3
49	51	6	57	1
50	47	16	63	3
51	57	22	79	4
52-55	78	17	95	2
56	80	8	88	6
57	84	15	99	4
58	66	13	79	7
59	79	11	90	7
60	82	25	107	6

回生	現員	不明	計	会費
61	69	15	84	10
62	88	9	97	17
63	85	13	98	24
64	70	16	86	16
65	69	14	83	12
66	70	22	92	11
67	88	17	105	12
68	65	28	93	12
69	95	19	114	18
70	84	26	110	17
71	69	29	98	5
72	48	21	69	8
73	74	18	92	13
74	64	28	92	8
75	54	21	75	7
76	56	23	79	11
77	55	24	79	6
78	61	39	100	4
79	60	19	79	3
80	72	10	82	4
81	69	17	86	5

回生	現員	不明	計	会費
82	52	24	76	9
83	69	34	103	12
84	51	27	78	7
85	48	43	91	0
86	44	37	81	14
87	33	32	65	6
88	29	47	76	7
89	43	52	95	3
90	37	31	68	1
91	23	39	62	2
92	22	46	68	2
93	17	31	48	0
94	23	21	44	2
95	12	31	43	0
96	13	39	52	2
97	13	23	36	1
98	6	32	38	0
99	9	12	21	2
100	6	19	25	0
101	2	12	14	0
102	1	5	6	0

回生	現員	不明	計	会費
103	2	5	7	0
104	0	2	2	0
105	1	0	1	0
106	2	6	8	1
107	1	0	1	0
108	2	12	14	0
109	3	11	14	0
110	1	14	15	0
111	2	4	6	0
112	2	1	3	0
113	10	4	14	0
114	3	4	7	0
115	7	2	9	0
116	14	2	16	0
117	5	2	7	0
118	13	13	26	0
119	16	5	21	0
120	13	4	17	0
合計	2,869	1,392	4,261	341

- 注 1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方
 2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方
 3) 会費:前会計期(2019.4~2020.3)会費あるいは賛助金納入者の人数
 会費免除会員(～61回生、および116回生～)の人数 1,161名

第1号議案(2) 2019年度決算(案)

収支計算書(案) 自2019年4月1日～至2020年3月31日 (単位:円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異 (予算の方が)
1 会費	2,770,000	2,594,000	176,000
(1) 総会会費(185名)	1,380,000	1,368,000	12,000
(2) 会員年会費(280名)	730,000	560,000	170,000
(3) 賛助金会費(166名)	660,000	666,000	△ 6,000
2 諸収入	101,200	160,438	△ 59,238
(1) 寄付金	50,000	60,000	△ 10,000
(2) 預金利子	1,200	438	762
(3) 広告料	50,000	100,000	△ 50,000
当期収入合計(A)	2,871,200	2,754,438	116,762
前期繰越	7,200,961	7,200,961	0
収入合計(B)	10,072,161	9,955,399	116,762

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
1 経費			
(1) 総会費用	1,410,000	1,309,386	100,614
(2) 会議費	80,000	60,610	19,390
(3) 諸会費	90,000	84,000	6,000
(4) 印刷・通信費	120,000	121,716	△ 1,716
(5) 事務雑費	10,000	460	9,540
(6) 会報費	970,000	906,600	63,400
(7) 清陵勉強会	60,000	60,000	0
(8) HP運営費	100,000	29,220	70,780
(9) 予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計(C)	2,870,000	2,571,992	298,008
当期収支差額(A)-(C)	1,200	182,446	△ 181,246
次期繰越(B)-(C)	7,202,161	7,383,407	△ 181,246

寄付金:本部40,000円 学校10,000円 事務局10,000円

貸借対照表(案) 2020年3月31日現在 (単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
流動資産		
現金	0	
普通預金(三菱UFJ)	1,140,386	
定期預金(三菱UFJ)	5,046,238	
郵便振替口座(会費・賛助金)	1,196,783	
流動資産合計	7,383,407	
資産合計		7,383,407
II 負債の部		
負債合計		0
正味財産		7,383,407
(うち当期正味財産増加額)		(182,446)
負債及び正味財産合計		7,383,407

以上監査の結果、正確なものと認めます。

令和2年6月2日 監査幹事 有賀朝彦 ㊟
 青木基浩 ㊟

第2号議案(2)

2020年度収支予算(案) 自2020年4月1日～至2021年3月31日(単位:円)

支出の部

科目	金額
総会費用	1,400,000
会議費	60,000
諸会費	60,000
印刷・通信費	130,000
事務雑費	50,000
会報費	800,000
清陵勉強会	30,000
HP運営費	50,000
予備費	30,000
小計	2,610,000
次期繰越	7,384,607
合計	9,994,607

収入の部

科目	金額
総会会費(200名)	1,280,000
会員年会費	560,000
賛助金会費	670,000
寄付金	50,000
預金利子	1,200
広告料	50,000
小計	2,611,200
前期繰越	7,383,407
合計	9,994,607

(注)2020年度予算の収支差額は1,200円の剰余金となります。

第3号議案 **東京清陵会役員改選(案)** (任期 2020年11月~2022年10月)

会長	原 大 (73回生)	幹事	上原 秀秋 (49回生)	幹事	波賀 かおり (86回生)
副会長	守矢 早苗 (67回生)	幹事	松木 庄師 (49回生)	幹事	北澤 聖 (87回生)
副会長	功刀 正行 (69回生)	幹事	岩波 裕治 (51回生)	幹事	須藤 美香里 (88回生)
副会長	両角 寛文 (78回生)※	幹事	笠原 哲次 (52・55回生)	幹事	藤森 裕基 (88回生)
副会長	米澤 あ子 (80回生)※	幹事	今井 恒夫 (57回生)	幹事	両角 はるか (89回生)
		幹事	五味 英明 (58回生)	幹事	古村 雅利 (90回生)
会計幹事	小海 健治 (84回生)	幹事	矢崎 悦郎 (59回生)	幹事	太田 美和 (91回生)
監査幹事	有賀 朝彦 (63回生)	幹事	篠原 健 (60回生)	幹事	小口 一貴 (92回生)
監査幹事	青木 基浩 (82回生)	幹事	宮澤 政文 (60回生)	幹事	仲田 優 (92回生)
		幹事	早川 次彦 (61回生)	幹事	溝口 浩司 (92回生)
事務局長	北原 譲 (82回生)	幹事	中谷 範行 (62回生)	幹事	松本 悦明 (93回生)
事務局次長	有賀 一温 (75回生)	幹事	藤森 汎 (62回生)	幹事	原 豊 (94回生)
事務局次長	矢崎 理恵 (81回生)	幹事	徳留 淳朔 (63回生)	幹事	宮下 正臣 (94回生)
事務局次長	岡本 徹 (83回生)	幹事	垣内 直 (64回生)	幹事	田中 聡久 (96回生)
事務局次長	森 政宏 (83回生)※	幹事	祖父江 宏三 (64回生)	幹事	丸山 伸也 (97回生)
事務局次長	赤羽 俊昭 (84回生)	幹事	金子 充宏 (65回生)	幹事	森 英一 (98回生)
事務局次長	清水 信次 (84回生)	幹事	林 央 (66回生)	幹事	小口 博正 (100回生)
事務局次長	佐藤 美智子 (88回生)	幹事	小平 攻 (67回生)	幹事	岡 真也 (101回生)
事務局次長	荒木 健太郎 (99回生)	幹事	小林 盛男 (68回生)	幹事	福島 洋一 (102回生)
		幹事	比田井 昌英 (69回生)	幹事	三宅 大作 (104回生)
顧問	林 尚孝 (52・55回生)	幹事	久保田 功一 (70回生)	幹事	福島 理雄 (105回生)
顧問	小川 勝嗣 (59回生)	幹事	北澤 一保 (71回生)	幹事	小池 伸 (106回生)
顧問	藤森 宏一 (63回生)	幹事	市村 敏夫 (72回生)	幹事	間宮 薫 (107回生)※
顧問	生越 万理子 (66回生)	幹事	原 秀男 (73回生)	幹事	三井 大樹 (107回生)※
顧問	平林 千義 (67回生)	幹事	両角 誠 (73回生)	幹事	久納 多恵 (108回生)
		幹事	北原 嘉泰 (74回生)	幹事	山川 裕矢 (109回生)
常任幹事	鈴木 徹 (48回生)	幹事	小平 聡 (75回生)	幹事	小口 七海 (109回生)
常任幹事	長田 宏子 (62回生)	幹事	金子 次男 (76回生)	幹事	小林 雄一 (109回生)
常任幹事	米山 迪男 (63回生)	幹事	宮坂 英二 (77回生)	幹事	柳澤 広識 (110回生)
常任幹事	春山 明哲 (68回生)	幹事	東城 清秀 (78回生)	幹事	山田 智衣 (110回生)
常任幹事	林 健康 (72回生)	幹事	宮原 佳彦 (78回生)	幹事	中村 太軌 (111回生)
常任幹事	窪田 敏 (73回生)	幹事	原田 健 (79回生)	幹事	田中 正明 (112回生)
常任幹事	マディーン啓子 (73回生)	幹事	丸山 重久 (79回生)	幹事	北原 智啓 (113回生)
常任幹事	伊藤 せい子 (75回生)	幹事	藤森 正樹 (80回生)	幹事	林 毅 (114回生)
常任幹事	後調 正則 (76回生)	幹事	脇坂 守一 (80回生)	幹事	平林 怜 (115回生)
常任幹事	石埜 穂高 (78回生)	幹事	五味 正信 (81回生)	幹事	石城 陽太 (116回生)
常任幹事	田中 達也 (81回生)	幹事	安川 昌昭 (81回生)	幹事	太田 恵輔 (116回生)
常任幹事	伊東 和夫 (85回生)	幹事	篠原 誠一 (82回生)	幹事	笠原 千鶴 (116回生)
常任幹事	細田 明 (86回生)	幹事	竹内 雅彦 (82回生)	幹事	秀島 真奈 (117回生)
常任幹事	蟹澤 啓明 (87回生)	幹事	藤森 薫 (82回生)	幹事	茅野 理子 (118回生)
常任幹事	吉中 宏子 (89回生)※	幹事	山田 実 (82回生)	幹事	宮坂 慶佑 (118回生)
常任幹事	藤森 裕司 (91回生)	幹事	小松 裕 (83回生)	幹事	小野 俊 (119回生)
常任幹事	斎藤 理恵 (97回生)※	幹事	飯田 秀機 (84回生)	幹事	平林 蒼音 (119回生)
常任幹事	勝 美穂 (110回生)	幹事	大和田 敏子 (84回生)	幹事	由井 恭介 (119回生)
		幹事	矢崎 治孝 (84回生)	幹事	岡崎 佑樹 (120回生)
幹事	小泉 和明 (46回生)	幹事	加藤 正治 (86回生)	幹事	中山 茉優 (120回生)
幹事	宮坂 勝郎 (48回生)	幹事	武田 正利 (86回生)	幹事	今井 裕二 (121回生)

東京清陵会2019(令和元)年度事業報告 第1号議案(1)

- 2019 (平成31年・令和元年度)
- 4・12 南信同窓連第59回親睦ゴルフ会(中山カントリークラブ)参加9校15名
- 4・16 第31回東京清陵会ゴルフコンペ(日本カントリークラブ)参加者10名
- 4・23 第175回清陵勉強会(南部労政会館)講師 伊藤洋一(71回)
- 4・24 第1回事務局会議(南部労政会館)出席15名
- 5・11 女子会懇話会 参加者10名
- 5・12 南信同窓連第48回定時総会(アルカディア市ヶ谷)参加15校71名
- 5・22 常任幹事会(南部労政会館)出席者25名
- 5・25 本部同窓会常任幹事会(清陵会館)
- 6・25 第176回清陵勉強会(南部労政会館)講師 後藤敏(83回)
- 6・29 清陵本部同窓会総会・懇親会(紅や)参加者368名
- 7・6 第55回東京同窓連定期総会(アルカディア市ヶ谷)参加16校61名
- 7・9 高校学習合宿講師 岩本敏男(74回生)
- 7・20 女子会AFTERNOON TEA SEMINAR(市ヶ谷スピカネットプレイス)参加者10名
- 7・24 学年幹事会(南部労政会館)出席者42名
- 8・15 会報「東京清陵会だより」30号発行発送部数3000部
- 8・27 第177回清陵勉強会(南部労政会館)講師 両角寛文(78回)
- 9・26 総会会場アルカディア市ヶ谷下見

- 10・6 第54回総会・懇親会の開催(アルカディア市ヶ谷)参加者192名
- 10・19 第32回東京清陵会ゴルフコンペ(紫カントリークラブ あやめ36東)参加者14名
- 10・19 高校キャリア講座 講師10名派遣(うち3名は台風で辞退)
- 10・27~28 第32回南信同窓連親睦旅行(尖石・別所温泉方面)参加17校49名
- 10・30 第178回清陵勉強会(南部労政会館)講師 石埜穂高(78回)
- 11・7 中学東京研修旅行 職場見学受入10ヶ所
- 11・7 南信同窓連第60回親睦ゴルフ会(中山カントリークラブ)参加7校15名
- 11・12 第2回事務局会議(南部労政会館)参加10名
- 11・16 本部同窓会物故者慰霊法要(地藏寺)
- 11・24 第5回働くことを考える若手の会(東京しごとセンター)参加者15名
- 12・5 南信同窓連忘年会(東天紅)参加17校64名
- 12・17 第179回清陵勉強会(南部労政会館)講師 一ノ瀬俊明(85回)

2020 (令和2年度)

- 2・1 東京同窓連新年懇親会(アルカディア市ヶ谷)参加47校236名
- 2・22 本部同窓会常任幹事会(清陵会館)
- 3・25 東京同窓連第21回親睦ゴルフ会(武蔵の杜カントリークラブ)参加15校44名

東京清陵会2020(令和2)年度事業計画 第2号議案(1)

- 1 第54回総会・懇親会
- 2 会報「東京清陵会だより」31号の発行(8月上旬)
- 3 事務局会議(定例6、11月・臨時)学年幹事会の開催
- 4 第6回働くことを考える若手の会(プレ就活)開催
- 5 第7回(前年度繰越し分)ミドル交流会、第8回ミドル交流会の開催
- 6 女子会の開催
- 7 清陵勉強会(原則偶数月の第4火曜日・南部労政会館)
- 8 事務局・委員会体制の見直し
- 9 会員情報管理の高度化・効率化(データベース整備とクラウド移行検討)
- 10 東京清陵会ホームページの拡充・SNS活用
- 11 懇親ゴルフ会の開催
- 12 本部同窓会、南信同窓連、東京同窓連行事への参加
- 13 母校・生徒との交流の拡充(講師派遣・職場受入れ体制の整備)
- 14 運営要領案の活用試行
- 15 その他必要とする事業

※コロナ禍で開催できないもの、オンラインまたは書面開催となる場合があります。ご了承いただきますよう、お願いいたします。

編集後記

コロナ禍の年。緊急事態宣言の下、人と会うことが忌避される中で、それぞれが心細い思いをしながらも、みんなでこの会報をまとめることができた。リモートでの編集会議、慣れないながらも、高校時代、清陵に通っていたというその一事が、時を超えて仲間としてまとまる絆となった。仲間といえるのは暖かい。仲間がいれば道を開ける。会報作りはそんな当たり前のことを再認識させてくれた。北沢 聖 (87回生)

訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏名	年次	逝去年月日
小平 邦紀	39	2019/4/22
西村 伸	40	2020/3/3
関 洋治	41	2019/3/8
味澤 喜三	43	2019/6/6
矢花 和一	43	不明
河西 芳郎	44	2011/5/7
遊坐 昭	44	2012//
小口 治俊	45	2018/9/23
岩波 一寛	45	2019/12/2
立石 久雄	45	2019/7/26
長田 昭二	46	2020/2/21
保延 和夫	46	2019/7/21
原 正男	46	2019/7/10
石井 栄一	47	2019/11/2
小松 一善	47	2019/5/12
花岡 和夫	47	2019/9/23
小平 謙	49	2020/3/8
白鳥 貞幸	49	2018/7/17
田中 信昌	49	2020/2/18
伊藤 友久	50	2019/11/4
矢島 幹	50	2017/6/2
有井 芳雄	51	2018/5/27
神山 正夫	51	2019/1/29
宮澤 弘	51	2018/6/25
石原 佑浩	52	2019/8/8
藤森 昇	52	2019/10/10
松沢 則夫	52	2020/3/19
神宮宇 剛	56	2018/3/1
藤森 三男	56	2020/3//
宮坂 幸志	56	2019/5/26
黒河内 謙一	57	2019/8/7
小平 克	58	2020/1/12
寺島 亮三	58	2020/1/16
齋藤 寛	58	2019/8/14
片山宏海	58	2019/11/6
平谷 春次	58	2017/11/27
中山 二彦	59	2017/5/22
山田 潔	59	2018/11/19
小川 博巳	60	2016/11/12
笹岡 拓雄	60	2017/12/21
上島 弘	60	2019/7/28
小平 利昌	60	2018/11/1
上田 益弘	61	2019/4/30
五味 平典	61	2020/3/30
青木 秀昭	62	2020/3/6
石井 直憲	62	2004/9/19
酒井 宣明	62	2019/5/22
林 忠広	62	2019/12/26
伊藤 喜夫	63	2019/3/4
小松 謙郎	63	2018/7/17
小泉 壽弘	64	2019/10/14
武井 元昭	64	2017/10/17
林 直司	64	2020/2/20
牛尼 泰起	65	2019/11/21
守矢 健生	65	2019/12/1
宮坂 正昭	66	2018/9/1
笠原 利英	67	2020/1/27
山下 博久	68	2019/11/30
伊藤 重利	68	2020/5/1
小口 牧通	69	2020/6/2
小林 正和	73	2020/4/20
松縄 茂	74	2019/9/11
林 友則	76	2019/8/10
小笠原 寿	89	2019/4/12

●事務局にご連絡をいただいた方(本国会報第46号含む)を掲載